

# 8

平成31年度

主要な施策の成果に関する報告書

< その2 >

多賀城市まちづくり報告書

(第五次多賀城市総合計画進捗状況報告)

令和2年9月

多 賀 城 市



## 目 次

### 8<その2>

この報告書は、3分冊で構成されています。この冊子は「8<その2>」です。

<b>IV 多賀城市まちづくり報告書(第五次多賀城市総合計画進捗状況報告)</b>	<b>1</b>
1 多賀城市まちづくり報告書(第五次多賀城市総合計画進捗状況報告)とは	3
2 全体の動向(施策別評価)	
(1) 施策別評価の概要	4
(2) 成果指標全体のうごき(施策・基本事業別)	4
(3) 政策別の成果指標全体のうごき(施策・基本事業合計)	5
(4) 成果指標全体の目標達成度(施策・基本事業別)	8
(5) 政策別の成果指標全体の目標達成度(施策・基本事業合計)	9
(6) 市民の満足度と重要度	12
3 施策・基本事業の動向(成果指標等一覧)	
(1) 施策・基本事業評価の見方	18
政策1 安全で快適に暮らせるまち <安全・快適分野>	21
政策2 元気で健やかに暮らせるまち <健康福祉分野>	51
政策3 歴史・文化を継承し豊かな心を育むまち <教育文化分野>	79
政策4 環境を大切に作る心を育むまち <環境分野>	101
政策5 集い つながり 活気あふれるまち<産業分野>	111
政策6 心がかよう地域の絆を育むまち <地域経営分野>	125
政策7 理解と信頼で進める自律したまち <行政経営分野>	135
(参考)まちづくりアンケート調査結果<平成31年度実施>	149

この「主要な施策の成果に関する報告書」は、第五次多賀城市総合計画に基づく平成31年度の事業と決算のあらましについて、3分冊で構成されています。

7<その1>では、「各会計の決算概要」を掲載しており、あわせて参考資料も掲載しています。  
8<その2>では、「多賀城市まちづくり報告書」として施策・基本事業の動向等を掲載しています。  
9<その3>では、実施計画事業及び主要事業の「事務事業評価表」を掲載しています。

本報告書は、市民と行政とがまちづくりの進み具合を共有するための資料として作成し、公表しています。

なお、すでに公表している平成30年度までの本報告書については、市ホームページでもご覧いただけます。

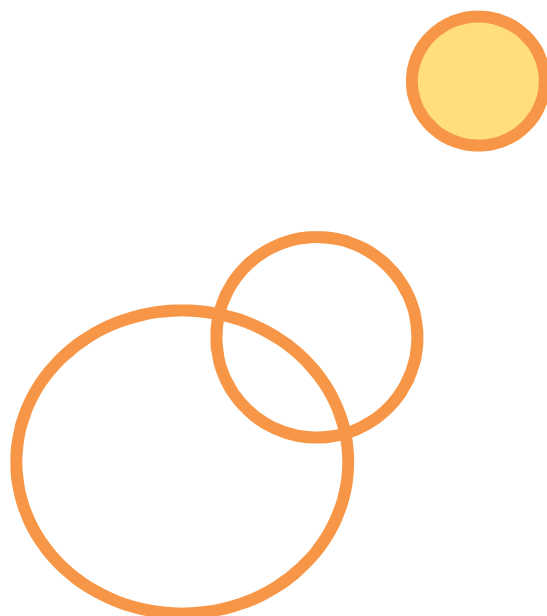


# Ⅳ 多賀城市まちづくり報告書

## (第五次多賀城市総合計画進捗状況報告)

---

---





# IV 多賀城市まちづくり報告書(第五次多賀城市総合計画進捗状況報告)

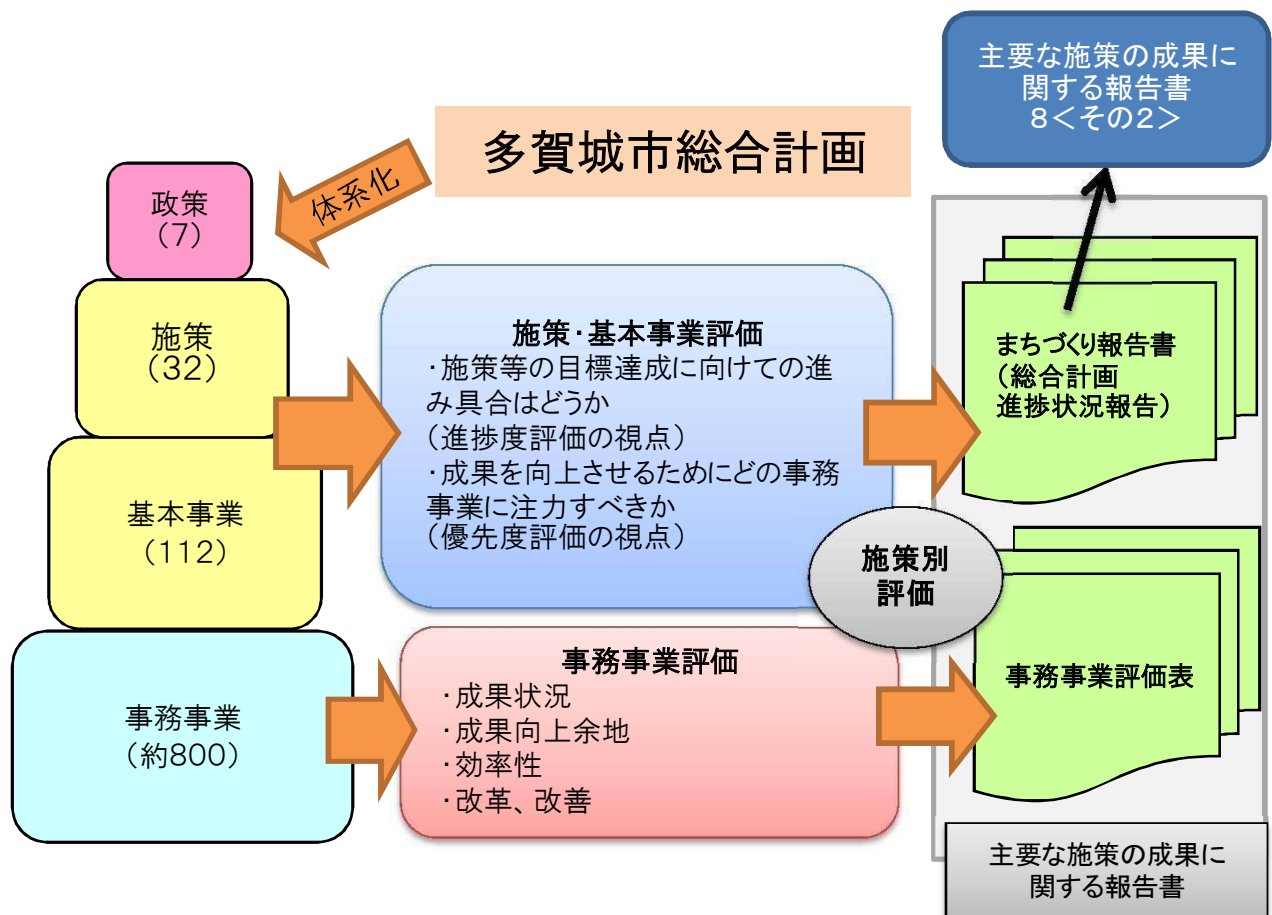
## 1 多賀城市まちづくり報告書(第五次多賀城市総合計画進捗状況報告)とは

多賀城市まちづくり報告書は、総合計画の目指すまちの姿の実現に向けて、まちづくりがどの程度進んでいるのか、事業の成果は上がっているのかといったことを示すため、平成31年度の決算を踏まえて、まちづくりの成果報告書として作成しています。

施策、基本事業における成果指標の推移を踏まえた成果状況等の結果を「施策別評価」として示すことで、総合計画の進捗状況等を明らかにしています。

また、複数年での指標の推移を確認することにより、指標のうごきが外的要因による突発的なものなのか、社会情勢の変化等による必然的なものなのかを見る目安となり、限られた行財政資源の「選択と集中」及び行政活動の「改革と改善」への活用が期待されます。

一般的には、事務事業の成果が向上することで基本事業の成果が向上し、基本事業の成果が向上することで施策の成果が向上する仕組みになっています。



## 2 全体の動向(施策別評価)

### (1) 施策別評価の概要

#### ① 施策別評価とは

施策別評価は、階層分けした施策及び基本事業について、成果指標の推移を踏まえた成果状況やその原因分析等の評価結果を施策ごとに示すものであり、これにより総合計画の進捗状況等を明らかにするとともに、その評価結果を次の施策や事業展開に活かしていくこととしています。

施策や基本事業に対して、その目的がどの程度達成されたのかを測るものさしとして「成果指標」を設定し、成果状況を数値で表すことで、総合計画の進捗状況や事業の成果状況を客観的に把握し、分析していくこととしています。

#### ② 指標のうごきからみるまちづくりの状況

施策・基本事業の成果指標の動向を後期基準値に対する「指標のうごき」で捉えるとともに、成果指標の令和2年度後期目標値に対する「目標達成度」を捉えることとし、これらをもとに総合計画の進捗状況を示しています。

### (2) 成果指標全体のうごき(施策・基本事業別)

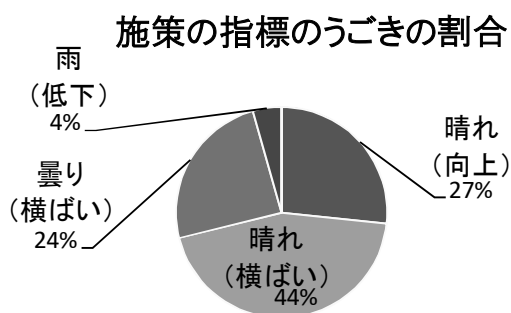
指標のうごきは、成果指標の後期基準値からの推移状況をもとに「晴れ(向上)」、「晴れ(横ばい)」、「曇り(横ばい)」、「雨(低下)」の3段階の区分で表しています【19ページ「指標のうごき」参照】。

施策と基本事業の「指標のうごき」の状況は下図のとおりとなっており、施策では「晴れ(横ばい)」が全体比率の44%と最も多く、次いで、「晴れ(向上)」が27%、「曇り(横ばい)」が24%、「雨(低下)」が4%となっています。

また、基本事業については、「晴れ(横ばい)」が全体比率の50%と最も多く、次いで「晴れ(向上)」が26%、「曇り(横ばい)」が17%、「雨(低下)」が7%となっています。

#### ① 施策数、成果指標数及び指標のうごきの割合等

施策数	32
成果指標数	48
(内訳)	
晴れ(向上)	12
晴れ(横ばい)	20
曇り(横ばい)	11
雨(低下)	2
未設定等	3

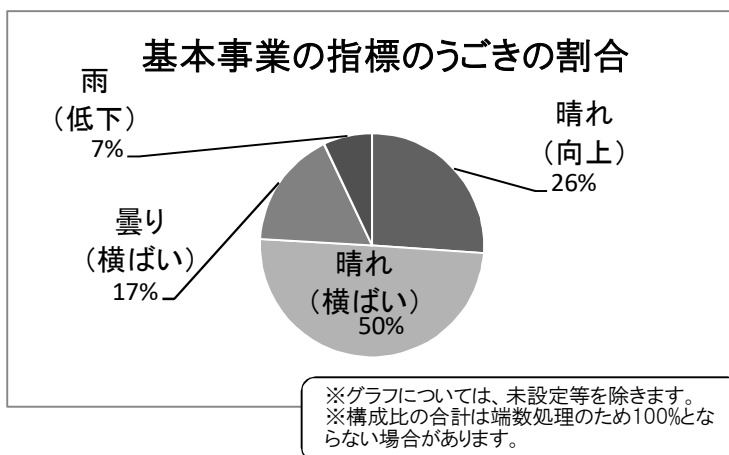


※グラフについては、未設定等を除きます。  
※構成比の合計は端数処理のため100%と  
ならない場合があります。



## ②基本事業数、指標数及び指標のうごきの割合等

基本事業数	112
成果指標数	228
(内訳)	
晴れ(向上)	52
晴れ(横ばい)	99
曇り(横ばい)	34
雨(低下)	14
未設定等	29



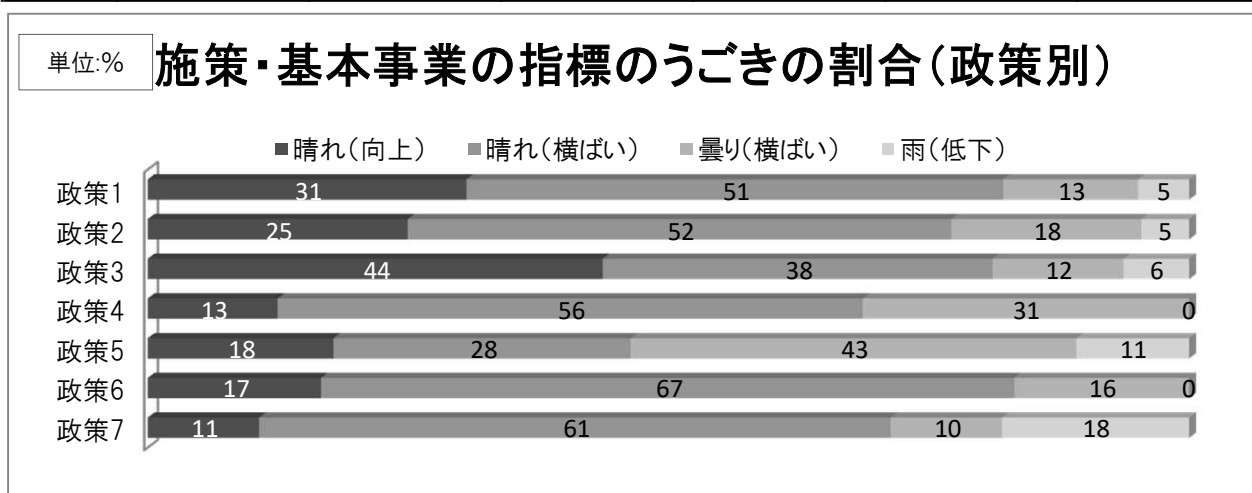
## (3) 政策別の成果指標全体のうごき(施策・基本事業合計)

### ① 全体の傾向

施策と基本事業の成果指標を「政策」ごとにまとめた政策別の成果指標のうごきの状況は下図のとおりとなっています。政策ごとに指標数や指標の性質等は異なりますが、「晴れ(向上)」及び「晴れ(横ばい)」の指標割合が多い政策は、政策6「心がかよう地域の絆を育むまち」、次いで政策1「安全で快適に暮らせるまち」、政策3「歴史・文化を継承し豊かな心を育むまち」となっています。

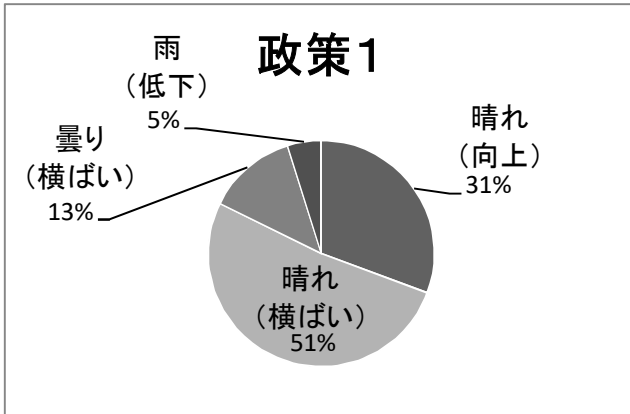
### ◎施策・基本事業の成果指標数及び指標のうごき

	晴れ(向上)	晴れ(横ばい)	曇り(横ばい)	雨(低下)	未設定等	計
政策1	19	32	8	3	1	63
政策2	11	23	8	2	20	64
政策3	21	18	6	3	2	50
政策4	2	9	5	0	1	17
政策5	5	8	12	3	1	29
政策6	3	12	3	0	0	18
政策7	3	17	3	5	7	35
計	64	119	45	16	32	276



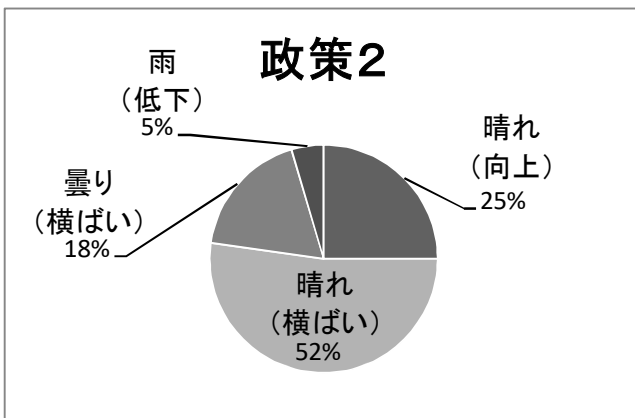
※グラフについては、未設定等を除きます。  
※構成比の合計は端数処理のため100%とならない場合があります。

## ② 政策別の傾向



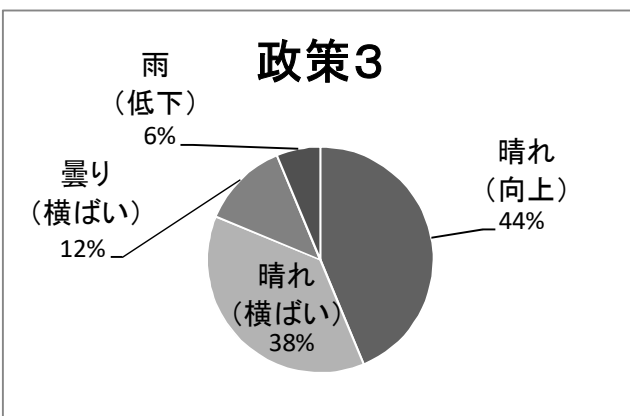
### 政策1(安全で快適に暮らせるまち)

- 成果が向上している主な基本事業の指標
  - ・下水道雨水面的整備率
  - ・夜間の防犯性を高める照明のLED電灯普及率
  - ・車道の利用に関して満足している市民割合
  - ・歩道の利用に関して満足している市民割合
  - ・多賀城駅や駅周辺施設が利用しやすいと思う市民割合
- 成果が低下している主な基本事業の指標
  - ・消防団充足率
  - ・中心市街地における空き店舗数



### 政策2(元気で健やかに暮らせるまち)

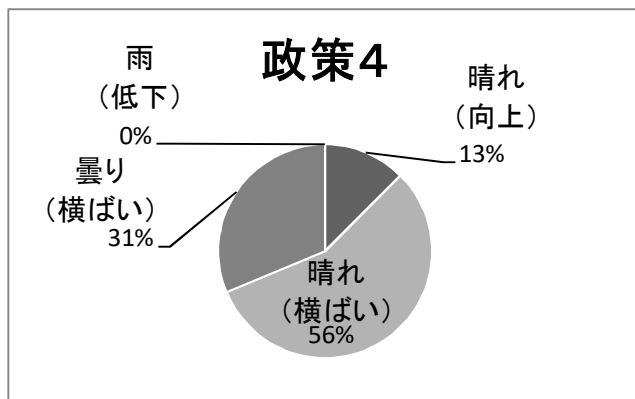
- 成果が向上している主な基本事業の指標
  - ・日常生活における見守り協定を締結している事業者数
  - ・教育・保育施設等の定員数
  - ・放課後児童クラブの入級可能定員数
  - ・連携している在宅医療機関、介護事業所の数
  - ・認知症の方への対応方法を知っている市民数
- 成果が低下している主な基本事業の指標
  - ・良好な近所づきあいができている市民割合
  - ・教育・保育施設等の待機児童数



### 政策3(歴史・文化を継承し豊かな心を育むまち)

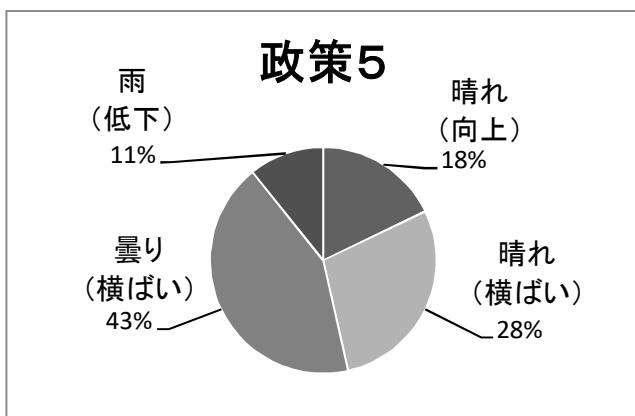
- 成果が向上している主な基本事業の指標
  - ・学校支援事業件数
  - ・放課後の安全な子どもの居場所・遊び場があると思う保護者割合
  - ・市立図書館の登録者数
  - ・活用されている文化財の面積
- 成果が低下している主な基本事業の指標
  - ・スポーツ普及団体の登録会員数

※グラフについては、未設定等を除きます。  
 ※構成比の合計は端数処理のため100%と  
 ならない場合があります。



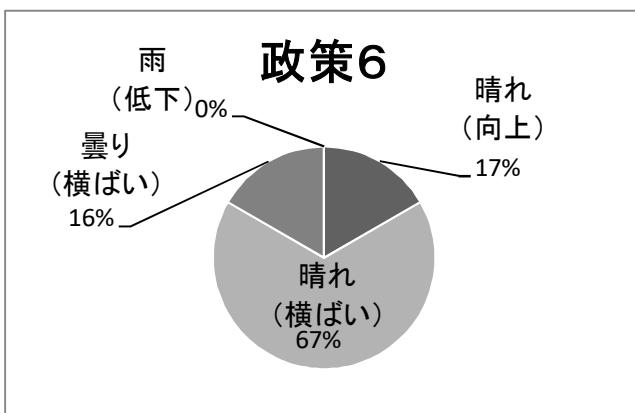
#### 政策4(環境を大切に作る心を育むまち)

- 成果が向上している主な基本事業の指標
  - ・市が開催した地球温暖化防止に向けた取組や環境事業の参加者数
  - ・生活公害苦情件数
- 成果が低下している主な基本事業の指標
  - ・なし



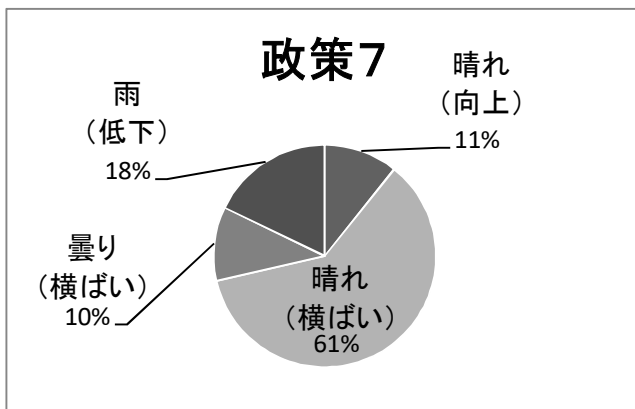
#### 政策5(集い つながり 活気あふれるまち)

- 成果が向上している主な基本事業の指標
  - ・ほ場整備面積(累計)
  - ・津波復興拠点の立地面積率(さんみらい多賀城・復興団地)
  - ・農地集積率
- 成果が低下している主な基本事業の指標
  - ・地域職業相談室の就職者数



#### 政策6(心がかよう地域の絆を育むまち)

- 成果が向上している主な基本事業の指標
  - ・自治会・町内会活動に対する行政からの支援メニューを活用した地域数
  - ・安全性や利便性が改善された活動拠点数(累計)
- 成果が低下している主な基本事業の指標
  - ・なし



#### 政策7(理解と信頼で進める自律したまち)

- 成果が向上している主な基本事業の指標
  - ・行政評価の考え方を意識して事業を推進している職員割合
  - ・基礎的財政収支(プライマリーバランス)
- 成果が低下している主な基本事業の指標
  - ・例月出納検査時に指導された件数
  - ・例月出納検査時に指摘した事項数(上水道部を含む)

※グラフについては、未設定等を除きます。  
 ※構成比の合計は端数処理のため100%と  
 ならない場合があります。

#### (4) 成果指標全体の目標達成度(施策・基本事業別)

成果指標の平成31年度指標値の令和2年度目標値への目標達成度を、「達成(目標値を達成している)」、「高(目標年度よりも前に目標値を達成する可能性が高いもの)」、「低(目標年度に目標値を達成することが難しいもの)」の3段階の区分で表しています【19ページの目標達成度参照】。

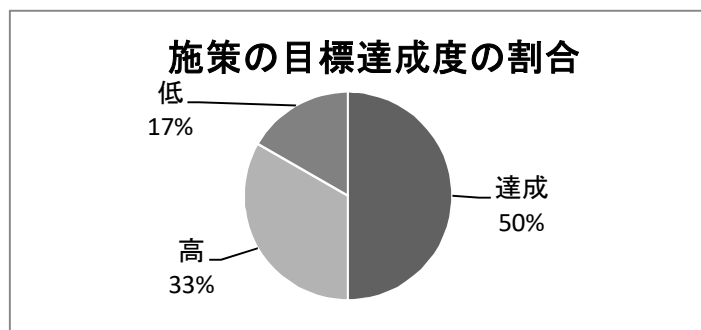
施策と基本事業の「目標達成度」の状況は、下図のとおりとなっています。施策では「達成」が全体比率の50%で最も多く、次いで「高」が33%、「低」が17%となっています。

また、基本事業については、「達成」が全体比率の50%と最も多く、「低」が28%、「高」が22%となっています。

※成果指標は、毎年取得するため、平成31年度時点の達成度が、「達成」の場合でも、翌年度以降変動する場合があります。

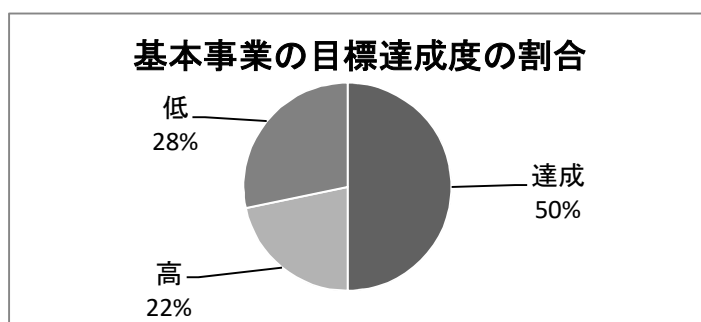
##### ① 施策数、成果指標数及び目標達成度の割合等

施策数	32
成果指標数	48
(内訳)	
達成	21
高	14
低	7
未設定等	6



##### ② 基本事業数、成果指標数及び目標達成度の割合等

基本事業数	112
成果指標数	228
(内訳)	
達成	99
高	43
低	56
未設定等	30



※グラフについては、未設定等を除きます。  
※構成比の合計は端数処理のため100%と  
ならない場合があります。

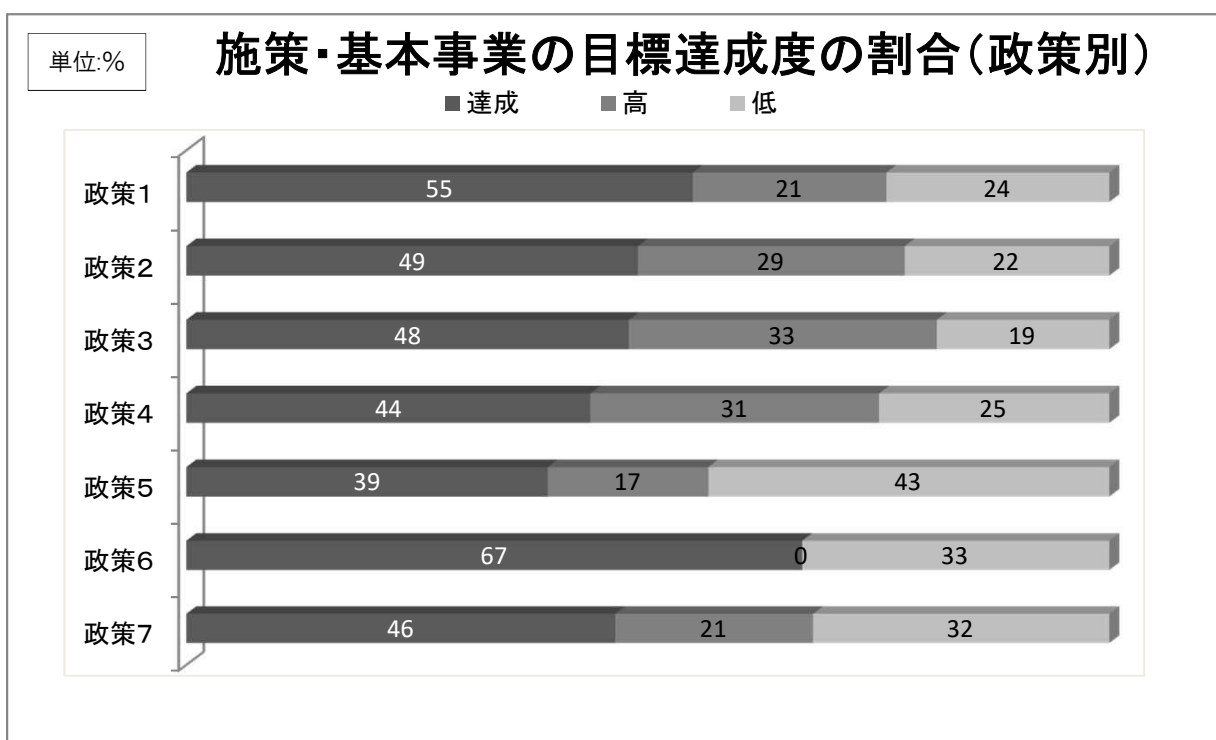
## (5) 政策別の成果指標全体の目標達成度(施策・基本事業合計)

### ① 全体の傾向

施策と基本事業の成果指標を「政策」ごとにまとめた政策別の目標達成度の状況は下表のとおりとなっています。政策ごとに指標数や指標の性質等は異なりますが、「達成」及び「高」の指標割合が多い政策は、政策3「歴史・文化を継承し豊かな心を育むまち」、政策2「元気で健やかに暮らせるまち」の順となっています。

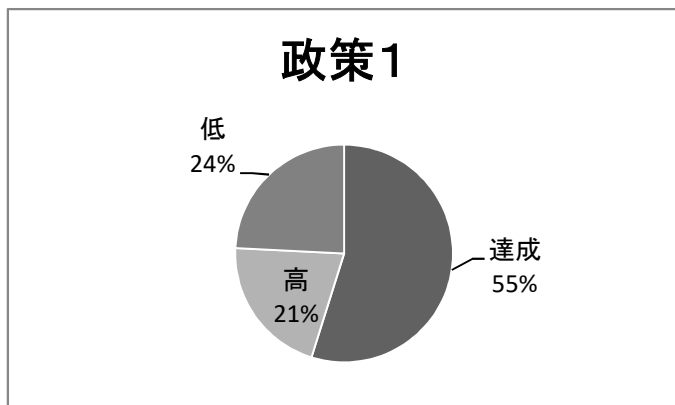
### ◎施策・基本事業の成果指標数及び目標達成度(政策別)

	達成	高	低	未設定等	計
政策1	34	13	15	1	63
政策2	22	13	10	19	64
政策3	23	16	9	2	50
政策4	7	5	4	1	17
政策5	9	4	10	6	29
政策6	12	0	6	0	18
政策7	13	6	9	7	35
全体	120	57	63	36	276



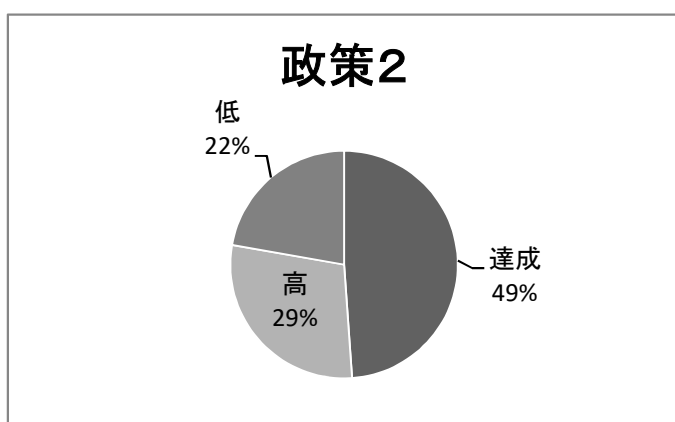
※グラフについては、未設定等を除きます。  
 ※構成比の合計は端数処理のため100%とならない場合があります。

## ② 政策別の傾向



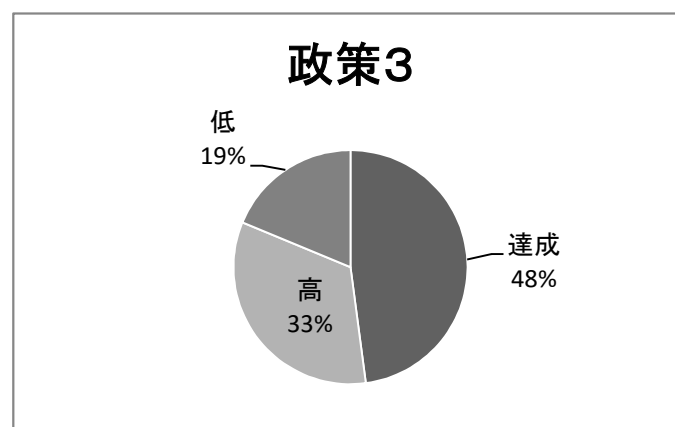
### 政策1(安全で快適に暮らせるまち)

- 成果を達成している主な基本事業の指標
- ・ 災害時に地域で助け合いができると思う市民割合
- ・ 良好な都市景観が創出・維持されていると思う市民割合
- ・ 使いやすく、憩える公園があると思う市民割合
- ・ 多賀城駅や駅周辺施設が利用しやすいと思う市民割合
- ・ 有収率



### 政策2(元気で健やかに暮らせるまち)

- 成果を達成している主な基本事業の指標
- ・ 1年に1回健康診断を受けている市民割合
- ・ 乳幼児健診の平均受診率
- ・ 地域型保育事業の数
- ・ 適切な療育サービスが受けられていると思う保護者割合



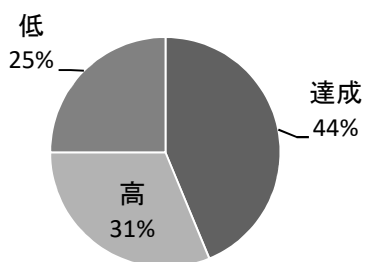
### 政策3

#### (歴史・文化を継承し豊かな心を育むまち)

- 成果を達成している主な基本事業の指標
- ・ 学校支援事業件数
- ・ 多賀城の歴史・文化・まちについて学ぶ小学校3年生以上の授業数
- ・ 授業がわかると答える児童・生徒割合
- ・ 講座・教室メニュー数
- ・ スポーツ等の教室・大会数
- ・ 活用されている文化財の面積

※グラフについては、未設定等を除きます。  
※構成比の合計は端数処理のため100%とならない場合があります。

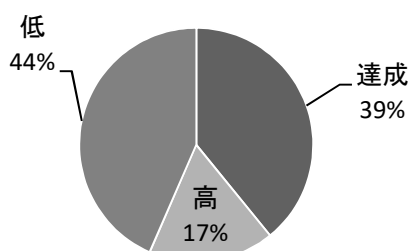
## 政策4



### 政策4(環境を大切に作る心を育むまち)

- 成果を達成している主な基本事業の指標
  - ・市が開催した地球温暖化防止に向けた取組や環境事業の参加者数
  - ・生活公害苦情件数
  - ・河川の水質基準の達成割合
  - ・市民1人当たり年間可燃ごみ排出量(家庭ごみ)

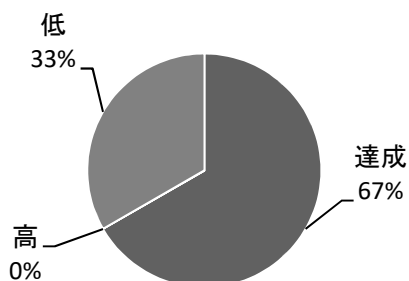
## 政策5



### 政策5(集い つながり 活気あふれるまち)

- 成果を達成している主な基本事業の指標
  - ・担い手農業者数
  - ・観光関連情報のマスメディアの掲出件数
  - ・主体的に誘客イベントを行っている団体数
  - ・観光しやすいまちへの整備件数(累計)

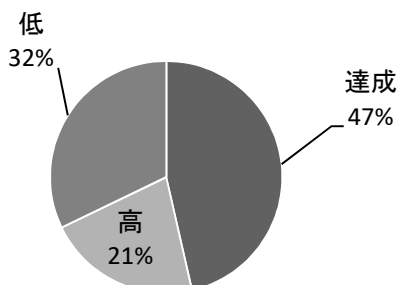
## 政策6



### 政策6(心がかよう地域の絆を育むまち)

- 成果を達成している主な基本事業の指標
  - ・自治会・町内会活動の必要性を理解している市民割合
  - ・安全性や利便性が改善された活動拠点数(累計)
  - ・市政情報が適切に提供されていると思う市民割合
  - ・市政に対する市民の意見・声を伝える場や機会に満足している市民割合

## 政策7



### 政策7(理解と信頼で進める自律したまち)

- 成果を達成している主な基本事業の指標
  - ・行政評価の考え方を意識して事業を推進している職員割合
  - ・基礎的財政収支(プライマリーバランス)
  - ・市税等の収納率

※グラフについては、未設定等を除きます。  
※構成比の合計は端数処理のため100%とならない場合があります。

## (6) 市民の満足度と重要度

### ①市民の満足度と重要度の取得方法等

今後のまちづくりに活かしていくことを目的として、各施策に対する市民ニーズ(満足度、重要度)の状況を、まちづくりアンケートによって取得しています。

まちづくりアンケートは、当該市民ニーズの把握の外に、総合計画の施策や基本事業に設定している成果指標の進捗状況を調査するため、毎年度実施しています。平成31年度の実施状況は、次のとおりです。

アンケート発送日	令和2年1月31日
アンケート発送数	3,000通
調査対象者数	2,978人
有効回収数	1,412人
回収率	47.4%

### ②市民の満足度と重要度の調査結果

ここでは、アンケートにより把握した32の施策に対する市民満足度と重要度の状況を5点満点で点数化し、後期基本計画の基準値である平成26年度と平成31年度の数値を比較しています。

満足度	
・満足	5点
・どちらかといえば満足	4点
・普通	3点
・どちらかといえば不満	2点
・不満	1点

重要度	
・力を入れてほしい	5点
・できれば力を入れてほしい	4点
・今のままでよい	3点
・あまり力を入れる必要はない	2点
・力を入れる必要はない	1点

政策・施策分野	満足度			重要度		
	平成26年度 A	平成31年度 B	対26年度比 C(B-A)	平成26年度 D	平成31年度 E	対26年度比 F(E-D)
1-1 災害対策の推進	3.00	3.09	0.09	4.07	3.99	△ 0.08
1-2 防犯対策の推進	2.88	3.00	0.12	3.96	3.90	△ 0.06
1-3 安全な消費生活の確保	2.98	3.06	0.08	3.64	3.60	△ 0.04
1-4 交通安全対策の推進	2.95	3.00	0.05	3.77	3.77	0.00
1-5 交通環境の充実	2.83	2.94	0.11	3.79	3.75	△ 0.04
1-6 市域の整備	2.86	2.96	0.10	3.68	3.61	△ 0.07
1-7 中心市街地の整備	2.79	3.07	0.28	3.69	3.56	△ 0.13
1-8 安全で安定した水の供給	3.27	3.34	0.07	3.54	3.59	0.05
2-1 地域福祉の推進	2.96	3.02	0.06	3.64	3.58	△ 0.06
2-2 健康づくりの推進	3.08	3.09	0.01	3.50	3.49	△ 0.01
2-3 子育て支援の充実	2.86	2.97	0.11	3.85	3.82	△ 0.03
2-4 高齢者福祉の推進	2.84	2.93	0.09	3.84	3.77	△ 0.07
2-5 障害者(児)福祉の推進	2.89	2.94	0.05	3.74	3.70	△ 0.04
2-6 社会保障等の充実	2.81	2.88	0.07	3.80	3.75	△ 0.05



政策・施策分野		満足度			重要度		
		平成26年度 A	平成31年度 B	対26年度比 C(B-A)	平成26年度 D	平成31年度 E	対26年度比 F(E-D)
3-1	学校・家庭・地域の連携による教育力の向上	2.89	2.91	0.02	3.70	3.68	△ 0.02
3-2	学校教育の充実	2.91	2.95	0.04	3.70	3.69	△ 0.01
3-3	生涯学習の推進	2.96	3.01	0.05	3.47	3.46	△ 0.01
3-4	市民スポーツ社会の推進	2.98	3.02	0.04	3.39	3.37	△ 0.02
3-5	文化財の保護と活用	3.17	3.17	0.00	3.40	3.41	0.01
4-1	環境との共生	3.01	3.07	0.06	3.41	3.42	0.01
4-2	生活環境の保全	3.00	3.03	0.03	3.48	3.49	0.01
4-3	資源循環型社会の形成	2.97	3.00	0.03	3.46	3.47	0.01
5-1	農業の振興	2.90	2.95	0.05	3.45	3.41	△ 0.04
5-2	商工業の振興	2.84	2.90	0.06	3.55	3.50	△ 0.05
5-3	企業誘致の推進	2.78	2.91	0.13	3.62	3.55	△ 0.07
5-4	観光の振興	2.72	2.75	0.03	3.70	3.63	△ 0.07
6-1	地域コミュニティの充実	2.90	2.95	0.05	3.49	3.44	△ 0.05
6-2	市民活動の充実	2.94	2.99	0.05	3.38	3.38	0.00
6-3	開かれた市政の推進	2.83	2.85	0.02	3.56	3.54	△ 0.02
7-1	適正な事務の執行とサービスの提供	2.88	2.92	0.04	3.53	3.50	△ 0.03
7-2	組織・人事マネジメント	2.87	2.86	▲ 0.01	3.40	3.44	0.04
7-3	効果的・効率的な行財政経営の推進	2.82	2.81	▲ 0.01	3.59	3.58	△ 0.01
	最大	3.27	3.34	/	4.07	3.99	/
	最小	2.72	2.75		3.38	3.37	
	平均	2.92	2.98		3.62	3.59	

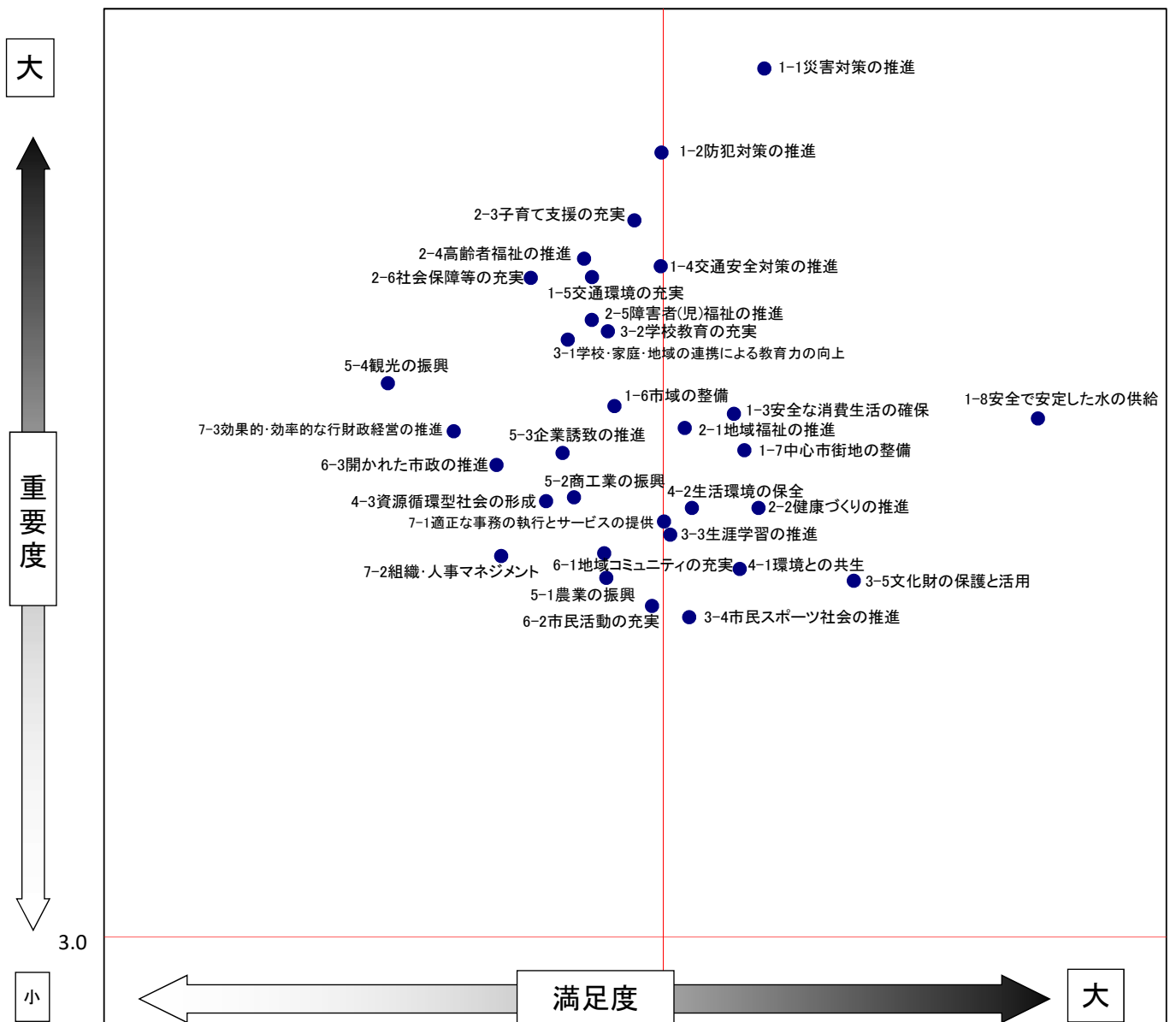
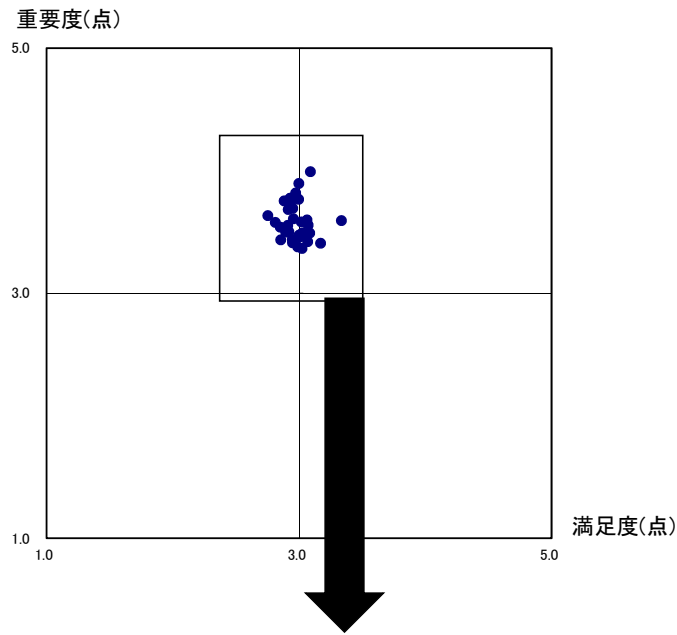
●満足度は上がると良い指標であり、重要度は下がると良い指標です。

●満足度が最も高い施策は、「1-8安全で安定した水の供給」で、次いで「3-5文化財の保護と活用」、「1-1災害対策の推進」、「2-2健康づくりの推進」となっています。一方で、満足度が最も低い施策は、「5-4観光の振興」で、次いで「7-3効果的・効率的な行財政経営の推進」、「6-3開かれた市政の推進」となっています。

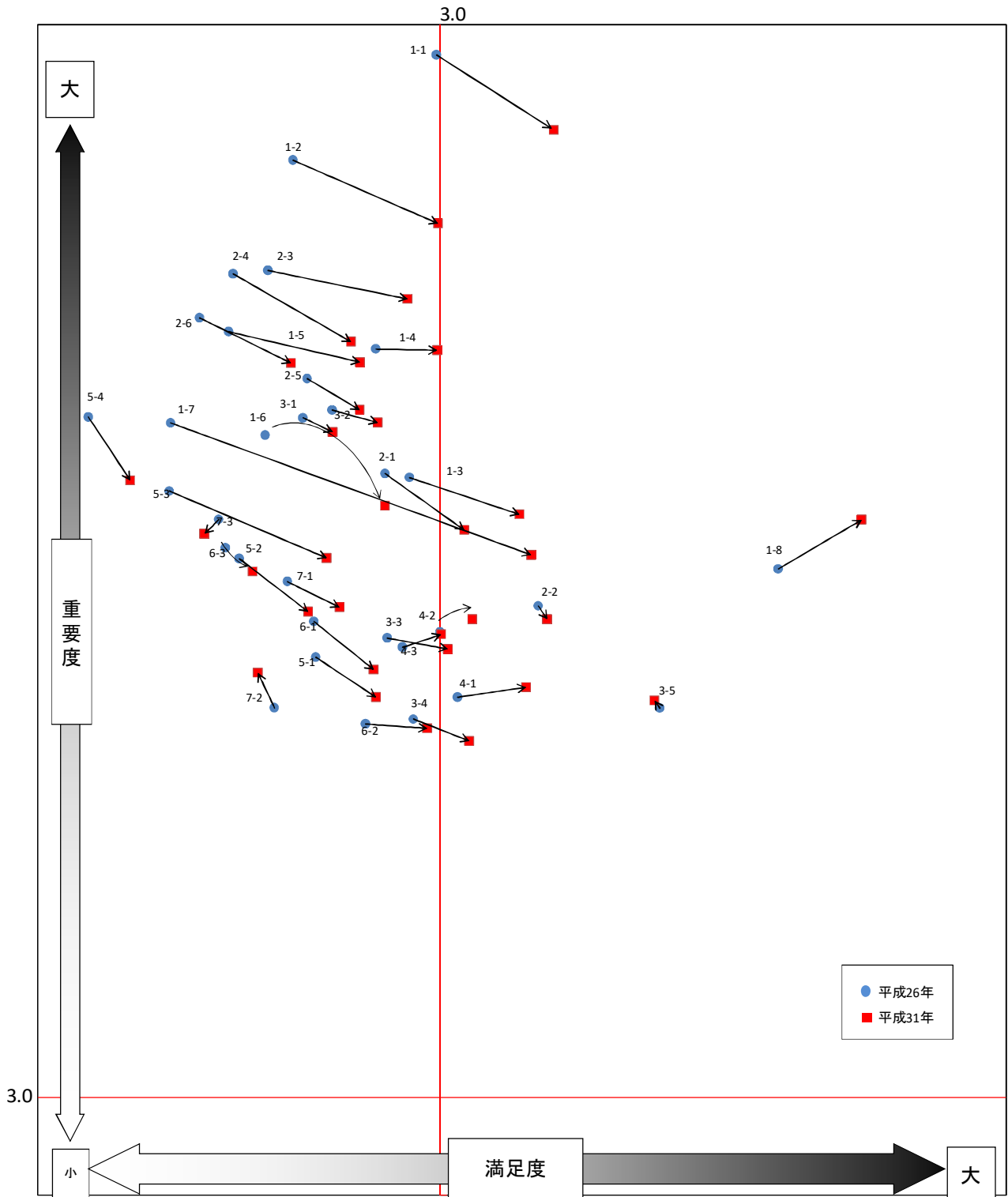
●重要度が最も高い施策は、「1-1災害対策の推進」で、次いで「1-2防犯対策の推進」、「2-3子育て支援の充実」となっています。重要度が最も低い施策は、「3-4市民スポーツ社会の推進」で、次いで「6-2市民活動の充実」、「3-5文化財の保護と活用」、「5-1農業の振興」となっています。

### ③市民の満足度と重要度の分布

平成31年度の各施策に対する市民の満足度と重要度の状況をグラフで表しています。



平成26年度(後期基準値)と平成31年度(実績値)とを比較したグラフ



- 政策1
- 1-1 災害対策の推進
  - 1-2 防犯対策の推進
  - 1-3 安全な消費生活の確保
  - 1-4 交通安全対策の推進
  - 1-5 交通環境の充実
  - 1-6 市域の整備
  - 1-7 中心市街地の整備
  - 1-8 安全で安定した水の供給
- 政策2
- 2-1 地域福祉の推進
  - 2-2 健康づくりの推進
  - 2-3 子育て支援の充実
  - 2-4 高齢者福祉の推進
  - 2-5 障害者(児)福祉の推進
  - 2-6 社会保障等の充実

- 政策3
- 3-1 学校・家庭・地域の連携による教育力の向上
  - 3-2 学校教育の充実
  - 3-3 生涯学習の推進
  - 3-4 市民スポーツ社会の推進
  - 3-5 文化財の保護と活用
- 政策4
- 4-1 環境との共生
  - 4-2 生活環境の保全
  - 4-3 資源循環型社会の形成
- 政策5
- 5-1 農業の振興
  - 5-2 商工業の振興
  - 5-3 企業誘致の推進
  - 5-4 観光の振興

- 政策6
- 6-1 地域コミュニティの充実
  - 6-2 市民活動の充実
  - 6-3 開かれた市政の推進
- 政策7
- 7-1 適正な事務の執行とサービスの提供
  - 7-2 組織・人事マネジメント
  - 7-3 効果的・効率的な行財政経営の推進

## (参考)統計の見方

### ①アンケートの配布票数及び有効票数について

統計学的には、対象となる範囲の方々の性別、年齢、職業、居住地などをバランスよく抽出しアンケート調査を行い、有効回答が概ね1,000票となれば、そのアンケート結果は、対象となる母集団の範囲の大小に係わらず、ほぼ変わらないとされています。この有効票数1,000票は、日本国民全体を対象とした場合でもサンプル数としては十分となることから、テレビの支持政党の電話アンケートなどの世論調査でも活用されています。

また、1,000票程度の有効票数が得られれば、違う人を対象に、同じアンケート調査を100回行った場合でも、そのうち95回は、ほぼ同じ結果が得られるとされています。そのため、傾向を判断する場合には、適切な手法ということとなります。ただし、アンケート結果がほぼ同数で回答が分かれるような内容の場合は、統計誤差の関係から、傾向の判断が難しい場合があります。

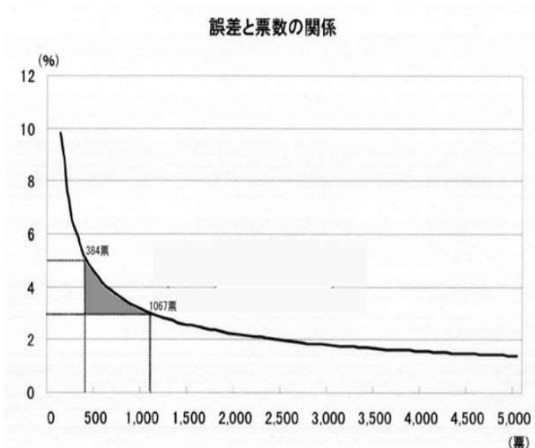
よって、今回実施した「多賀城市まちづくりアンケート」においても、概ね1,000票の有効回答を目標に、これまで多賀城市で実施したアンケート調査結果などから回収率を約33%と想定し、配布数(対象者数)を3,000票としました。

### ②アンケートの回収票の信頼性

アンケート票数と誤差との関係は、当然アンケート票数が少ないと誤差は大きく、アンケート票数が多いと誤差は少なくなります。しかしその関係は一定ではなく、富士山の稜線のカーブのような関係にあります。【下図参照】

つまり、票数が少ない時は票数を少し増やすことにより誤差が大幅に減少しますが、ある一定の数を超えると、票数を大幅に増やしても誤差はほとんど変わらなくなります。統計学的には、この「一定の数」は、目標誤差:3~5%以内であれば良いとされており、それを下記の計算式で逆算すると概ね400~1,100票程度であることが算出されています。

よって、有効回答票の回収数がこの程度あれば、住民意向の把握として十分信頼性の高い数字になると言えます。



【上記は3%~5%の範囲を示しています。】

#### 《参考》

サンプル数(アンケートの有効回答票数)と誤差との関係式

必要なサンプル数

$$= (\text{有意水準}^2 \times P(1-P)) \div \text{目標誤差}^2$$

有意水準: 統計学の「正規分布表」から有意水準5%の定数(=1.96)

P: 誤差が一番大きくなるのは50%のときなので0.5

目標誤差: 3~5%以内であれば良いとされている。

### ③回収票数と誤差

実施の結果として仮に1,000票の回答があったとすると、上記の式に入れて逆算すると、誤差は3.1%となります。これは、例えば違う人を対象にして、今回と同じ調査を複数回実施しても、結果の%の値が±3.1ポイント以内でしか変わらないということです。

このことから、まちづくり報告書においては、異なる年度との比較を行う際には、5.0ポイントまでの差については、統計誤差として処理することとしています。



### 3 施策・基本事業の動向(成果指標等一覧)

#### (1) 施策・基本事業評価の見方

政策 01 安全で快適に暮らせるまち

施策 01 災害対策の推進

施策の成果状況は、左側のページとなるよう調整しています。

##### 施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
市民、行政区、事業者、行政	防災への取組によって、市民が安心して生活できます。

「対象」は施策や基本事業が働きかける対象(人やモノ)を示しています。  
 「意図」は施策や基本事業を展開することで「対象」をどのような状態にしたいのか、その目標とする姿を示しています。

##### 【指標の区分】

目指す姿の実現具合を測るものさしとして設定している成果指標は、その特性により次の3つに区分しています。

- 成果: 目指す姿の達成度を示すもの
- 社会: 事業状況を指標化したものの、行政の関与よりも社会経済情勢等の影響が大きいもの
- 代替: 成果の指標化が難しい場合に、代替指標として行政の活動量等を設定したもの

##### 【取得方法】

- 市民アンケート: 毎年定期的に市民3,000人を対象に行うアンケートにより取得する方法
- 職員アンケート: 毎年定期的に職員を対象に行うアンケートにより取得する方法
- 業務取得: 通常の業務内で取得する方法
- 課独自調査: この成果指標を取得するために各課等が行うアンケート等により取得する方法

##### 【指標特性】

- 上がると良い: 数値が上がると良い指標
- 下がると良い: 数値が下がると良い指標
- その他: 数値の増減で良し悪しを判断できない指標

##### 【後期基準値】

平成26年度としています。

【担当課】令和2年度担当部署です。

##### 施策の成果状況と評価

指標	単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標のうごき
① 成果 市民アンケート 上がると良い 交通防災課	%	59.1	62.7	60.6	▲	☀️ (横ばい)

評価	内容
(状況)	平成31年度は60.6%で、平成30年度より2.1ポイント減少していますが、後期基準値より1.5ポイント増加しており、順調です。
(原因)	平成31年度は台風の影響により総合防災訓練が中止になりましたが、東日本大震災後の速やかな災害復旧や防災行政無線の整備、総合治水対策の推進、津波避難ビル等の支援協定締結、災害用備蓄品の整備など行政の取組みが認知されていることに加え、地域の自主防災組織が充実されていることにより、市民の安心感向上につながったものと考えられます。

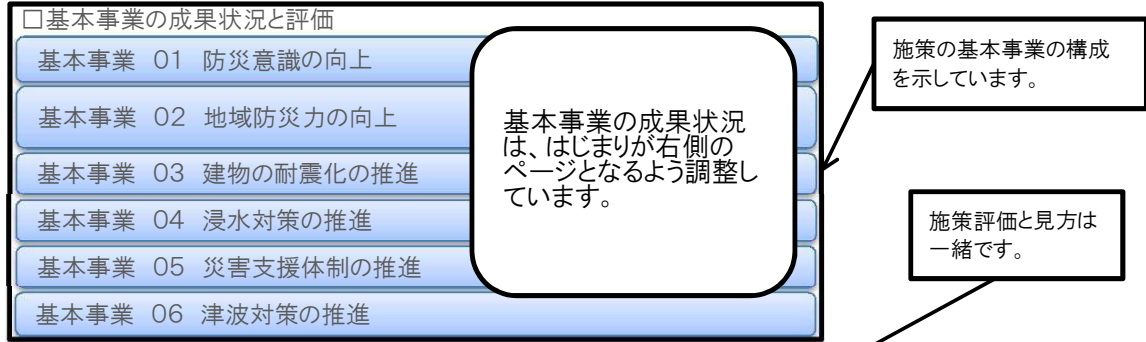
##### 【評価】

「(状況)」は、指標値の増減、指標のうごき、目標達成度に関する評価を記載しています。  
 「(原因)」は、状況に対する原因分析の内容を記載しています。

◆は、各年度ごとの実績値です。指標の実績値の推移をグラフで示しています。

▲は、令和2年度の目標値を示しており、グラフ上の最も過去の実績値から目標値への方向性をラインで示しています。

【掲載している施策・基本事業は、掲載例です。実際の内容とは異なります。】



基本事業01 防災意識の向上  
災害への備えをしている世帯割合

指標	成果	市民アンケート	上がると良い	交通防災課	単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標のうごき
①	成果	市民アンケート	上がると良い	交通防災課	%	54.7	53.4	52.1	→	
評価	(状況)平成31年度は52.1%で、平成30年度より1.3ポイント、後期基準値より2.6ポイント減少しておりますが、概ね横ばいです。 (原因)年齢が高くなるほど災害から身を守る準備を行っている割合が高く、若い世代で割合が低くなっており、特に20歳代において、他の年齢層に比べ非常用持出袋を用意している割合が低くなっています。平成31年度は総合防災訓練の中止により、啓発する機会が減少したことが要因の1つと考えられます。									(横ばい) 目標達成度  (高)

基本事業02 地域防災力の向上  
災害時に地域で助け合いができると思う市民割合

指標	成果	市民アンケート	上がると良い	交通防災課	単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標のうごき
①	成果	市民アンケート	上がると良い	交通防災課	%	61.6	65.4	63.4	→	
評価	(状況)平成31年度は63.4%で、平成30年度より2.0ポイント減少していますが、後期基準値より1.8ポイント増加しており、順調です。 (原因)平成31年度は台風の影響により総合防災訓練が中止になりましたが、70歳以上の年代で高い数値となっており、日頃からの交流や震災時に助け合ったり、励ましあったりした実体験などが基準値を維持している大きな要因と考えられます。									(横ばい) 目標達成度  (達成)

**【目標値】**  
 目標値は、次の3つのパターンで表わしています。  
 数値:業務データから現状値を把握するもの  
 矢印:目標値を数値で表しにくいもの(アンケートによる把握、取得方法変更等)と現状維持のもの  
 ※アンケート指標については、統計誤差の関係があるため、方向性を矢印で表し、数値で目標を設定していません。  
 ※計画期間中にやむを得ず取得方法を変更した指標については、目標値を矢印としています。  
 - :社会・経済情勢等の影響が大きい社会指標や目標設定がなじまない代替指標としているもの

**【指標のうごき】**  
 後期基準値(又は取得初年度)と比較した際の平成31年度の成果指標のうごきを、次の区分により示しています。  
 なお、アンケートから数値を取得しているものは、一定の統計誤差を考慮しています。  
 ☀(向上):数値(成果)が後期基準値(又は取得初年度)より向上しているもの  
 ☀(横ばい):数値(成果)が後期基準値(又は取得初年度)に比べ微向上(横ばい)であるもの  
 ☀(横ばい):数値(成果)が後期基準値(又は取得初年度)に比べ微低下(横ばい)であるもの  
 ☀(低下):数値(成果)が後期基準値(又は取得初年度)に比べ低下しているもの  
 - :平成31年度に実績値がないもの、平成26~30年度の実績値がないもの又は指標特性が「その他」のもの

**【目標達成度】**  
 成果指標の令和2年度の後期目標値への達成度合いを示しています。  
 👑(達成):目標値を既に達成しているもの  
 🏗️(高):目標年度で目標値を達成する可能性が高いもの  
 🏗️(低):目標年度で目標値を達成することが難しいもの  
 - :社会指標等の目標値がないもの、平成31年度に実績値がないもの又は指標特性が「その他」のもの





# 政策1

安全で快適に暮らせるまち

＜安全・快適分野＞

---

**政策 01 安全で快適に暮らせるまち**

**施策 01 災害対策の推進**

**施策のプロフィール**

施策の対象	施策の意図
市民、行政区、事業者、行政	防災への取組によって、市民が安心して生活できます。

**施策の成果状況と評価**

指標 ①	まち（市民、地域、行政）の防災に対する備えが整っていると 思う市民割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標の うごき  目標 達成度  (達成)																
	成果	市民アンケート	上がると良い	交通防災課	%	59.1	62.7	60.6		➔															
評価	<p>（状況）平成31年度は60.6%で、平成30年度より2.1ポイント減少していますが、後期基準値より1.5ポイント増加しており、順調です。                  （原因）平成31年度は台風の影響により総合防災訓練が中止になりましたが、東日本大震災後の速やかな災害復旧や防災行政無線の整備、総合治水対策の推進、津波避難ビル等の支援協定締結、災害用備蓄品の整備など行政の取組が認知されていることに加え、地域の自主防災組織が充実されていることにより、市民の安心感向上につながったものと考えられます。</p>				<table border="1"> <caption>防災に対する備えが整っていると 思う市民割合の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H26</td><td>59.1</td></tr> <tr><td>H27</td><td>60.6</td></tr> <tr><td>H28</td><td>62.7</td></tr> <tr><td>H29</td><td>60.6</td></tr> <tr><td>H30</td><td>62.7</td></tr> <tr><td>H31</td><td>60.6</td></tr> <tr><td>R02</td><td>60.6</td></tr> </tbody> </table>				年度	割合 (%)	H26	59.1	H27	60.6	H28	62.7	H29	60.6	H30	62.7	H31	60.6	R02	60.6	(横ばい)  目標 達成度  (達成)
年度	割合 (%)																								
H26	59.1																								
H27	60.6																								
H28	62.7																								
H29	60.6																								
H30	62.7																								
H31	60.6																								
R02	60.6																								

□基本事業の成果状況と評価

基本事業 01 防災意識の向上

基本事業 02 地域防災力の向上

基本事業 03 建物の耐震化の推進

基本事業 04 浸水対策の推進

基本事業 05 災害支援体制の推進

基本事業 06 津波対策の推進

基本事業01 防災意識の向上

指標 ①	災害への備えをしている世帯割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い						
				%	54.7	53.4	52.1	→	
評 価	(状況) 平成31年度は52.1%で、平成30年度より1.3ポイント、後期基準値より2.6ポイント減少しておりますが、概ね横ばいです。 (原因) 年齢が高くなるほど災害から身を守る準備を行っている割合が高く、若い世代で割合が低くなっており、特に20歳代において、他の年齢層に比べ非常用持出袋を用意している割合が低くなっています。平成31年度は総合防災訓練の中止により、啓発する機会が減少したことが要因の1つと考えられます。								(横ばい) 目 標 達成度 ■■■ (高)

基本事業02 地域防災力の向上

指標 ①	災害時に地域で助け合いができると思う市民割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い						
				%	61.6	65.4	63.4	→	
評 価	(状況) 平成31年度は63.4%で、平成30年度より2.0ポイント減少していますが、後期基準値より1.8ポイント増加しており、順調です。 (原因) 平成31年度は台風の影響により総合防災訓練が中止になりましたが、70歳以上の年代で高い数値となっており、日頃からの交流や東日本大震災発生時に助け合ったり、励ましあったりした実体験などが要因と考えられます。								(横ばい) 目 標 達成度 ■■■ (達成)

基本事業02 地域防災力の向上

指標 ②	自主防災組織率			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標の うごき
	成果	業務取得	上がると良い						
				%	100	100	100	100	
評 価	(状況) 平成31年度も100%で、後期目標値を達成しています。 (原因) 東日本大震災の影響により、自助、共助、公助の役割が広く理解され、地域全体が自主防災組織の必要性を強く感じていることが要因と考えられます。								(横ばい) 目 標 達成度 ■■■ (達成)

基本事業02 地域防災力の向上

指標 ③	より実践的な防災の取組を実施している地域割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標の うごき
	成果	業務取得	上がると良い						
				%	—	76.6	21.3	→	
評 価	平成29年度から指標の取り方を変更しています。 (状況) 平成31年度は21.3%で、平成30年度より55.3ポイント、平成29年度の59.6%より38.3ポイント減少しております。47行政区のうち①防災訓練の実施、②防災講座等の開催、③防災計画の作成、④備蓄品等の確認、⑤要援護者を対象とした訓練の実施の5項目のうち4項目以上を実践している地区が10行政区となっています。 (原因) 地区内における防災訓練については、市が毎年11月に実施する総合防災訓練に合わせて実施している地区が多く、令和元年台風第19号により総合防災訓練が中止となったことが要因と考えられます。								(低下) 目 標 達成度 ■■■ (低)

□基本事業の成果状況と評価

基本事業02 地域防災力の向上

指標④	消防団充足率			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標の うごき
	成果	業務取得	上がると良い	交通防災課	%	90	83.5	82	95
評価	消防団の定員は、上限200人です。								目 標 達成度
	<p>(状況) 平成31年度は82.0%(164人)で、平成30年度(167人)より1.5ポイント、後期基準値より8.0ポイント減少しています。</p> <p>(原因) 消防団員は自営業や会社員など仕事に従事しながら災害から市民を守るため地域防災の要として活動していますが、就業形態の変化等に伴い、消防団への入団希望者が少ないことが要因です。</p>								

基本事業03 建物の耐震化の推進

指標①	市有建築物の耐震化率			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標の うごき
	成果	業務取得	上がると良い	管財課	%	96.9	98	98	100
評価	対象となる市有建築物は、101棟です。								目 標 達成度
	<p>(状況) 平成31年度は98.0%で、後期基準値及び平成30年度と比較して横ばいとなっています。</p> <p>(原因) 未改修施設は市役所東庁舎と旧図書館の2施設です。市役所東庁舎については、平成30年3月策定(令和2年2月改定)の多賀城市庁舎整備基本計画に基づき令和6年度改修着手を目標としています。旧図書館については、庁舎改修中の代替倉庫として活用しており、庁舎全体改修完了後の用途が確定した後に、用途に合わせた耐震化の必要性を検討していきます。</p>								

基本事業03 建物の耐震化の推進

指標②	耐震化を実施した世帯(累計)			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標の うごき
	代替	業務取得	上がると良い	都市計画課	世帯	84	94	101	120
評価	目標値は令和2年度までの累計(実績値も同様の考え方)								目 標 達成度
	<p>(状況) 平成31年度は101世帯で、平成30年度より7世帯、後期基準値より17世帯増加しています。</p> <p>(原因) 一部の世帯にアンケート調査した結果等から、耐震化工事費の負担が経済的に困難であることや、東日本大震災においても倒壊しなかった事実により改修の意識が低くなっていますが、固定資産税の納税通知と併せて建築物の耐震化に関する案内を送付したことが要因と考えられます。</p>								

基本事業04 浸水対策の推進

指標①	下水道雨水面的整備率			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標の うごき
	成果	業務取得	上がると良い	施設整備課	%	38.3	49.2	51.7	54
評価									目 標 達成度
	<p>(状況) 平成31年度は51.7%で、平成30年度より2.5ポイント、後期基準値より13.4ポイント増加しています。</p> <p>(原因) 平成31年度に実施した、八幡雨水幹線の2工区、町前雨水幹線の2工区及び八幡雨水枝線の2工区などが完成したことが要因です。</p>								

□基本事業の成果状況と評価

基本事業05 災害支援体制の推進

指標①	防災情報送受信システムの不具合件数			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標の うごき
	成果	業務取得	下がると良い	交通防災課	件/年	0	0	0	0
評価	<p>(状況) 平成31年度も0件で、防災情報送受信システムの不具合はなく、後期目標値を達成しています。 (原因) 定期的なメンテナンスを実施していることが要因と考えられます。</p>								<p>目標達成度</p> <p>(達成)</p>

基本事業05 災害支援体制の推進

指標②	災害用備蓄品の備蓄率			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標の うごき
	成果	業務取得	上がると良い	交通防災課	%	123.2	117.9	129.3	100
評価	<p>災害用備蓄品の必要数は、12,000人×2食×3日=72,000食です。 (状況) 平成31年度は129.3%で、平成30年度より11.4ポイント増加しています。 (原因) 既存備蓄品の保存期限等を適正に管理し、計画的に新規購入等を行っていることが要因です。</p>								<p>目標達成度</p> <p>(達成)</p>

基本事業05 災害支援体制の推進

指標③	消防水利設置率			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標の うごき
	成果	業務取得	上がると良い	交通防災課	%	96.5	100	100	100
評価	<p>(状況) 平成31年度も100%で、後期目標値を達成しています。 (原因) 定期的な巡視及び計画的なメンテナンスによる不具合の防止並びに新たに開発等を行う事業者に対し、消防水利の基準に基づく設置指導を行っていることが要因です。</p>								<p>目標達成度</p> <p>(達成)</p>

基本事業05 災害支援体制の推進

指標④	災害時に職員として果たすべき役割や初動を理解している職員割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標の うごき
	成果	職員アンケート	上がると良い	交通防災課	%	94.4	98.4	97.6	→
評価	<p>(状況) 平成31年度は97.6%で、平成30年度より0.8ポイント減少していますが、後期基準値より3.2ポイント増加しており、順調です。 (原因) 総合防災訓練を実施するために、地域、学校、関係機関と現地班が協力して訓練内容の検討を重ねることで、それぞれの役割分担が明確になり、情報の共有が図れていること、また、担当課対応職員についてもBCP(事業継続計画)が策定されていることが要因と考えられます。</p>								<p>目標達成度</p> <p>(高)</p>

□基本事業の成果状況と評価

基本事業06 津波対策の推進

指標①	津波防御施設の整備割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標の うごき
	代替	業務取得	上がると良い	都市計画課	%	28	77	80	100
評価	<p>(状況) 平成31年度は80.0%で、平成30年度より3.0ポイント、後期基準値より52.0ポイント増加しています。 (原因) 第3堤として実施している防災緑地整備事業が、一部完成したことが要因です。</p>								(向上) 目標達成度 (低)

基本事業06 津波対策の推進

指標②	避難道路の整備割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標の うごき
	成果	業務取得	上がると良い	復興建設課	%	0	33	33	100
評価	<p>(状況) 平成31年度は33.0%で、平成30年度から変化はありません。 (原因) 避難道路(2事業)については、物件移転補償及び道路・橋梁工事に取り組み、事業が着実に進捗しています。平成31年度は、事業が完了していないため実績値に変化はありません。</p>								(横ばい) 目標達成度 (高)

基本事業06 津波対策の推進

指標③	避難可能区域の割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標の うごき
	成果	業務取得	上がると良い	交通防災課	%	95	100	100	100
評価	<p>(状況) 避難可能区域(高台まで800m以内及び800mより遠い地域で津波避難ビルまで330mの範囲)内の世帯割合が、平成31年度は100%となっており、後期目標を達成しています。 (原因) 津波があった際に、全ての世帯が高台等に避難できるように避難箇所を設定していることが要因です。</p>								(横ばい) 目標達成度 (達成)





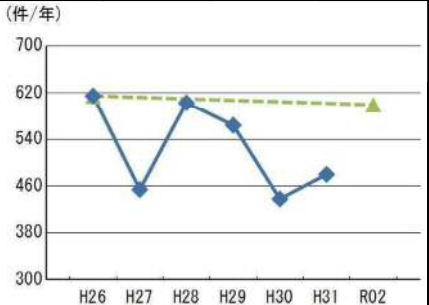
政策 01 安全で快適に暮らせるまち



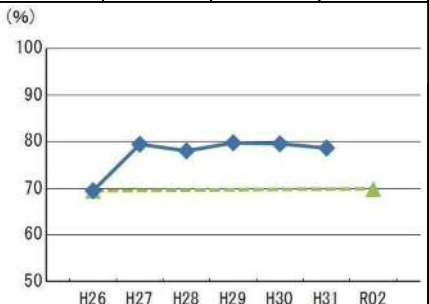
施策 02 防犯対策の推進

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
市民、事業者、土地所有者等及び行政	犯罪にあわない、起こさせない地域社会がつけられています。

施策の成果状況と評価

指標①	刑法犯認知件数			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標の うごき
	成果	業務取得	下がると良い						
			交通防災課	件/年	615	438	480	600	 (横ばい) 目標 達成度  (達成)
評価	(状況) 平成31年は480件で、平成30年より42件増加、後期基準値より135件減少しています。 (原因) 窃盗犯384件が刑法犯認知件数の80%を占め、その主な内訳は、自転車盗129件、万引き76件、車上ねらい40件となっています。駅及び店舗等の駐輪場での自転車盗が増加していることが要因と考えられます。								

指標②	犯罪も少なく、安心して暮らせる地域になっていると思う市民割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い						
			交通防災課	%	69.6	79.5	78.6	→	 (横ばい) 目標 達成度  (高)
評価	(状況) 平成31年度は78.6%で、平成30年度より0.9ポイント減少していますが、後期基準値より9.0ポイント増加しています。 (原因) 性別、年齢別、地区別の全ての区分で目標値を上回っています。市民、地域、事業所及び行政等で行った様々な防犯対策の取組が要因と考えられます。また、リース方式によるLED防犯街路灯への100%切替え、多賀城駅周辺への多賀城交番の移転や防犯カメラの設置等が市民の安心感の醸成につながっているものと考えられます。								



□基本事業の成果状況と評価

基本事業 01 地域が支えあう社会づくり

基本事業 02 都市を構成する施設の防犯機能の拡充

基本事業01 地域が支えあう社会づくり

指標①	防犯対策に取り組んでいる市民割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標のうごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	交通防災課	%	82.2	82.4	83.3	➔
評価	(状況) 平成31年度は83.3%で、平成30年度より0.9ポイント、後期基準値より1.1ポイント増加しています。 (原因) 市民アンケートでは、「家の戸締りを徹底している」との回答が一番多く、平成31年度は86.9%で平成30年度の85.7%より1.2%増加していることが要因と考えられます。その他は「夜間の外出はなるべく控えている」、「防犯ブザーや携帯電話などを携帯している」との回答が多くなっています。								

基本事業01 地域が支えあう社会づくり

指標②	防犯活動に取り組んでいる市民割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標のうごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	交通防災課	%	32.5	27.5	29.6	➔
評価	(状況) 平成31年度は29.6%で、平成30年度より2.1ポイント増加、後期基準値より2.9ポイント減少しています。 (原因) 防犯活動にまったく参加していない市民割合は66.6%で、特に20歳～59歳の年齢層が多いことから、仕事や子育て等による活動参加への困難さが要因と考えられます。なお、最も多く参加している活動は「声かけ、あいさつ運動」で20%であり、残りの活動については10%未満の参加率です。								

基本事業02 都市を構成する施設の防犯機能の拡充

指標①	夜間の防犯性を高める照明のLED電灯普及率			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標のうごき
	代替	業務取得	上がると良い	交通防災課	%	18.5	93.3	96.9	30
評価	(状況) 平成31年度は96.9%で、平成30年度より3.6ポイント、後期基準値より78.4ポイント増加しています。 (原因) 蛍光灯、水銀灯の防犯街路灯、道路照明灯をリース方式によりLED電灯に切り替えたことが要因です。								

基本事業02 都市を構成する施設の防犯機能の拡充

指標②	防犯性を高める改善をした都市施設数（累計）			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標のうごき
	代替	業務取得	上がると良い	交通防災課	件	27	63	67	150
評価	(状況) 平成31年度は67件で、平成30年度より4件、後期基準値より40件増加しています。 (原因) 多くの都市施設において、すでに防犯カメラの設置等による改善が行われていることが、大きな伸びにつながらない要因と考えられます。また、施設等では、樹木剪定を行い、見通しの確保に努めています。				目標値は平成28年度を初年度とする5年間の累計(実績値も同様の考え方) 				

**政策 01 安全で快適に暮らせるまち**

**施策 03 安全な消費生活の確保**

**施策のプロフィール**

施策の対象	施策の意図
市民	市民が消費者トラブルにあうことなく生活しています。

**施策の成果状況と評価**

指標 ①	この1年間に消費者トラブルにあった市民割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	下がると良い	生活環境課	%	6.8	6.7	5.8	➔
評価	<p>(状況) 平成31年度は5.8%で、後期基準値より1.0ポイント、平成30年度より0.9ポイント減少していますが、市民アンケートの指標であり、統計誤差の範囲です。</p> <p>(原因) 平成31年度の消費者トラブルは、架空・不当請求、通信販売、多重債務が上位を占めています。トラブルから身を守るための消費者講座や出前講座の開催、広報多賀城や市ホームページにより様々な情報を発信していることが、横ばいの要因と考えられます。</p>							目標 達成度	
									■ (高)

□基本事業の成果状況と評価

基本事業 01 消費生活相談の充実

基本事業 02 消費者啓発・教育の充実

基本事業01 消費生活相談の充実

指標 ①	消費者相談で解決策を提示した割合（他機関への紹介含む）			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標の うごき
	成果	業務取得	上がると良い	生活環境課	%	100	100	100	100
評 価	(状況) 平成31年度も平成30年度に引き続き100%で、後期目標値を達成しています。窓口及び電話での消費生活相談全てにおいて、解決策を提示しています（平成31年度相談件数:340件）。 (原因) 消費生活相談員が、問題解決のための研修会等に積極的に参加し、個々の相談解決スキル向上を図っていることが後期目標値の達成を維持している要因と考えられます。								(横ばい) 目 標 達 成 度 (達成)

基本事業02 消費者啓発・教育の充実

指標 ①	消費者トラブルに関する対応を知っている市民割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	生活環境課	%	67.9	67.2	65.6	→
評 価	(状況) 平成31年度は65.6%で、後期基準値より2.3ポイント、平成30年度より1.6ポイント減少していますが、市民アンケートの指標であり、統計誤差の範囲です。 (原因) 平成31年度の解決方法を1つも知らない市民割合は14.4%で、平成30年度より0.7ポイント増加しています。消費者講座や出前講座の開催、広報多賀城や市ホームページ等による消費者トラブルから身を守るための様々な情報の発信や、相談窓口等を積極的に案内するなど、時代に即した解決方法の周知に努めます。								(横ばい) 目 標 達 成 度 (低)



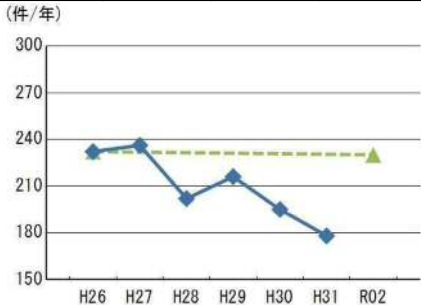
政策 01 安全で快適に暮らせるまち



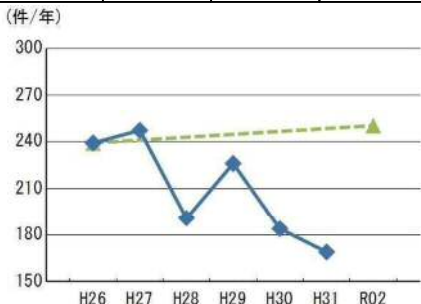
施策 04 交通安全対策の推進

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
市民、市域を通行する者	交通事故が減少しています。

施策の成果状況と評価

指標 ①	交通事故発生件数（人身事故）			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標の うごき
	成果	業務取得	下がると良い						
	交通防災課			件/年	232	195	178	230	 (向上) 目 標 達 成 度  (達成)
	暦年での件数								
評 価	(状況) 平成31年は178件で、平成30年より17件、後期基準値より54件減少しており、後期目標値を達成しています。 (原因) 過去10年間では、一番低い数値です。警察による取締りや交通関係団体等と連携した啓発活動が要因と考えられます。				(件/年) 				

指標 ②	市民が第1当事者となった交通事故発生件数			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標の うごき
	成果	業務取得	下がると良い						
	交通防災課			件/年	239	184	169	250	 (向上) 目 標 達 成 度  (達成)
	暦年での件数								
評 価	(状況) 平成31年は169件で、平成30年より15件、後期基準値より70件減少しています。また、事故の46%は市内で発生しています。 (原因) 年代別では、20歳代と40歳代が多く、違反別では、安全運転義務違反が8割以上を占め、安全不確認が最も多いです。関係団体、警察等との連携による交通安全運動や飲酒運転根絶大会等の継続的な実施及び地域の啓発活動が要因と考えられます。				(件/年) 				

□基本事業の成果状況と評価

基本事業 01 交通安全思想の普及・推進

基本事業 02 交通安全施設の整備

基本事業01 交通安全思想の普及・推進

指標①	交通ルールを遵守している市民割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標のうごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	交通防災課	%	83.2	86.9	87.3	→
評価	<p>(状況) 平成31年度は87.3%で、平成30年度より0.4ポイント、後期基準値より4.1ポイント増加しています。                  (原因) 交通安全関係団体、警察等と連携した普及啓発活動が要因と考えられます。</p>								(横ばい) 目標達成度 (達成)

基本事業01 交通安全思想の普及・推進

指標②	交通安全啓発活動人数			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標のうごき
	成果	業務取得	上がると良い	交通防災課	人	7,004	8,186	8,528	→
評価	<p>(状況) 平成31年度は8,528人で、平成30年度より342人、後期基準値より1,524人増加しています。                  (原因) 平成30年度と比較すると交通安全運動等の日数が多かったことで増加しています。交通安全啓発事業として、交通安全関係団体、警察、市及び学校の連携のもと、春・秋の交通安全運動、飲酒運転根絶大会、交通安全教室等が行われ、各団体の連携意識が高まっていることが要因と考えられます。</p>								(向上) 目標達成度 (達成)

基本事業01 交通安全思想の普及・推進

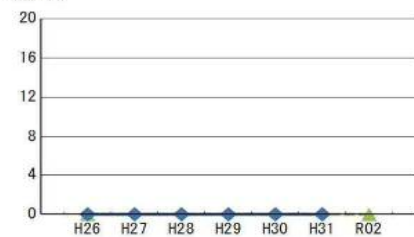
指標③	市民による飲酒運転事故発生件数			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標のうごき
	成果	業務取得	下がると良い	交通防災課	件/年	3	2	2	0
評価	<p>暦年での件数                  (状況) 平成31年は2件で、平成30年と同数で、後期基準値より1件減少しています。                  (原因) 平成17年に市内で発生した痛ましい事故があって以来、飲酒運転の事故の件数は半減したものの、近年は横ばい状態が続いています。春・秋の交通安全運動や飲酒運転根絶大会等において、街頭キャンペーン等の普及啓発活動を強化し、交通ルール遵守割合も向上しているものの、飲酒運転根絶には至っていないことが要因です。</p>								(横ばい) 目標達成度 (高)

基本事業02 交通安全施設の整備

指標④	交通安全施設整備件数(累計)			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標のうごき
	代替	業務取得	上がると良い	道路公園課	件	28	37	56	100
評価	<p>目標値は平成28年度を初年度とする5年間の累計(実績値も同様の考え方)                  (状況) 平成31年度は19件で、累計で56件となっています。後期目標値には届いておりませんが、道路管理者として交通安全上必要な対策箇所については、すべて対応しています。                  (原因) カーブミラー等交通安全施設の整備を交通安全対策特別交付金等を活用し、適正に実施しています。</p>								(横ばい) 目標達成度 (低)

□基本事業の成果状況と評価

基本事業02 交通安全施設の整備

指標 ②	交通安全施設維持管理上の不具合トラブル件数			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標の うごき
	成果	業務取得	下がると良い	道路公園課	件/年	0	0	0	0
評 価	(状況) 平成31年度も0件で、後期目標値を達成しています。 (原因) 交通安全施設の点検等により、不具合箇所の早期発見及び 早期対応等に努めています。また、定期的に道路パトロールや道路 照明灯夜間パトロール等を実施し、交通安全施設によるトラブルを 未然に防いでいることが要因と考えられます。			(件/年) 					



政策 01 安全で快適に暮らせるまち

施策 05 交通環境の充実

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
市民、市管理道路・橋梁	利用しやすい道路や公共交通網が整備され、市民が快適に移動できます。

施策の成果状況と評価

指標①	市内を円滑に移動できると思う市民割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い						
				%	—	86.4	86.5	➔	☀ (向上)
評価	(状況) 平成31年度は86.5%で、平成30年度より0.1ポイント、平成27年度の74.8%より11.7ポイント増加しています。 (原因) 市内の道路整備が段階的に進捗していることや、多賀城駅周辺における様々な都市計画事業が完了し、多賀城駅の交通結節点機能が向上したことが要因と考えられます。								目標 達成度
									■ (高)

指標②	市外に円滑に移動できると思う市民割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い						
				%	—	90.1	90	➔	☀ (向上)
評価	(状況) 平成31年度は90.0%で、平成30年度より0.1ポイント減少していますが、平成27年度の85.0%より5.0ポイント増加しています。 (原因) 本市及び本市周辺自治体の道路整備が段階的に進捗していること、多賀城駅の交通結節点機能が向上したこと、復興関係道路や生活道路の整備が段階的に進捗していること等が要因と考えられます。								目標 達成度
									■ (高)



□基本事業の成果状況と評価

基本事業 01 道路の整備

基本事業 02 道路の維持管理

基本事業 03 公共交通の充実

基本事業01 道路の整備

指標 ①	車道の利用に関して満足している市民割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	道路公園課	%	77.7	90.3	88.9	➔
評価	(状況) 平成31年度は88.9%で、平成30年度より1.4ポイント減少していますが、後期基準値より11.2ポイント増加しています。 (原因) 復興関連道路や生活道路の整備が段階的に進捗していることにより、交通アクセスや生活道路の利便性が向上したことが要因と考えられます。								(向上)
									目標 達成度
								 (達成)	

基本事業01 道路の整備

指標 ②	都市計画道路整備延長（改良済み延長と概成済延長の合計）			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標の うごき
	代替	業務取得	上がると良い	都市計画課	km	34.82	37.62	38.28	38
評価	目標値は、5年間の累計(実績値も同様の考え方)								(横ばい)
	(状況) 平成31年度は38.28kmで、平成30年度より0.66km、後期基準値より3.46km増加し、後期目標値の38kmを達成しました。 (原因) 復興事業として取り組んでいる津波復興拠点整備事業に伴う都市計画道路整備が進んだことが要因です。								目標 達成度
								 (達成)	

基本事業01 道路の整備

指標 ③	歩道の利用に関して満足している市民割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	道路公園課	%	68.2	78.1	77.9	➔
評価	(状況) 平成31年度は77.9%で、平成30年度より0.2ポイント減少していますが、後期基準値より9.7ポイント増加しています。 (原因) 復興関連道路や生活道路及び安全施設の整備が段階的に進捗していることにより、歩行者の安全かつ円滑な通行が確保されていることが要因と考えられます。								(向上)
									目標 達成度
								 (達成)	

基本事業02 道路の維持管理

指標 ①	道路維持管理上の事故件数			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標の うごき
	成果	業務取得	下がると良い	道路公園課	件/年	0	1	1	0
評価	(状況) 平成31年度は、1件が発生しています。 (原因) 定期的な道路パトロールの実施や情報提供等により、異常箇所の早期発見及び早期対応等に努めていましたが、市道の側溝蓋が外されたことによる事故の発生前に異常箇所を発見できなかったことが要因です。								(横ばい)
									目標 達成度
								 (高)	

□基本事業の成果状況と評価

基本事業02 道路の維持管理

指標 ②	橋梁耐震化率			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標の うごき
	成果	業務取得	上がると良い	道路公園課	%	16.6	58.3	66.7	83.3
評価	<p>(状況) 平成31年度は66.7%で、平成30年度より8.4ポイント、後期基準値より50.1ポイント増加しています。                  (原因) 社会資本整備総合交付金の橋梁維持補修事業による橋本橋の耐震化工事が完了したことが要因です。</p>								(向上) 目標達成度 (低)

基本事業03 公共交通の充実

指標 ①	主要施設までの移動手段がなく困っている市民割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	下がると良い	市長公室	%	19.4	15	16.1	→
評価	<p>(状況) 平成31年度は16.1%で、平成30年度より1.1ポイント増加していますが、後期基準値より3.3ポイント減少しています。市民アンケートの指標であり、統計誤差の範囲です。                  (原因) 交通結節点である多賀城駅周辺整備による利便性向上、平成28年度からの多賀城西部線の日曜・祝日の運行開始、平成31年度からの同線及び多賀城東部線の運行状況確認用バスロケーションシステムの導入といった、公共交通を利用する環境が改善されたことが、要因と考えられます。</p>								(横ばい) 目標達成度 (高)



政策 01 安全で快適に暮らせるまち

施策 06 市域の整備

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
市域	快適な街並みが整備されています。

施策の成果状況と評価

指標 ①	快適な街並みになっていると思う市民割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標の うごき  目標 達成度  (達成)
	成果	市民アンケート	上がると良い	都市計画課	%	74.1	80.6	79.8	
評価	<p>(状況) 平成31年度は79.8%で、後期基準値より5.7ポイント増加しています。平成30年度より0.8ポイント減少していますが、市民アンケートの指標であり、統計誤差の範囲です。</p> <p>(原因) 「仙塩広域都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」に即し、「多賀城市都市計画マスタープラン」に基づいてまちづくりを進め、秩序ある都市の発展につながっていることが要因と考えられます。</p>								<p>☀ (向上)</p> <p>目標達成度</p> <p>🏰 (達成)</p>

□基本事業の成果状況と評価

基本事業 01 秩序ある都市計画の推進

基本事業 02 美しい都市景観の創出・維持

基本事業 03 安らぎと潤いのある公園整備

基本事業 04 都市緑化の推進

基本事業01 秩序ある都市計画の推進

指標①	市街地における地区計画設置数（累計）			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標の うごき
	代替	業務取得	その他	都市計画課	地区	4	6	6	6
評価	目標値は令和2年度までの累計(実績値も同様の考え方)			(地区)					
	<p>(状況) 平成31年度は6地区で、後期基準値より2地区増加していますが、平成30年度と変化はありません。                  (原因) 平成27年度に宮内地区計画及び津波復興拠点地区計画を策定したことから、目標を達成しています。現在のところ、新たに地区計画を策定する予定はありません。</p>								

基本事業02 美しい都市景観の創出・維持

指標①	良好な都市景観が創出・維持されていると思う市民割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標の うごき	
	成果	市民アンケート	上がると良い	都市計画課	%	78.9	83.4	84	→	☀️ (横ばい)
評価	<p>(状況) 平成31年度は84.0%で、平成30年度より0.6ポイント、後期基準値より5.1ポイント増加しています。                  (原因) 用途地域による秩序ある良好な街並みの形成、街路樹や公園等の整備による緑の確保、地区計画や生垣助成による垣・柵の緑化の推進、市民による花のまちづくりの活動等を実施していることが要因と考えられます。</p>									目標 達成度

基本事業03 安らぎと潤いのある公園整備

指標①	使いやすく、憩える公園があると思う市民割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標の うごき	
	成果	市民アンケート	上がると良い	道路公園課	%	69	78	74.8	→	☀️ (横ばい)
評価	<p>(状況) 平成31年度は74.8%であり、平成30年度より3.2ポイント減少していますが、後期基準値より5.8ポイント増加しています。                  (原因) 定期的な公園パトロールの実施や情報提供等により、異常箇所早期発見及び早期に施設の改修や樹木の維持管理を行ってきたことが要因と考えられます。</p>									目標 達成度

基本事業03 安らぎと潤いのある公園整備

指標②	市民と協働で管理している公園割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標の うごき	
	成果	業務取得	上がると良い	道路公園課	%	99.4	100	98.8	100	☁️ (横ばい)
評価	<p>(状況) 平成31年度は98.8%で、平成30年度より1.2ポイント、後期基準値より0.6ポイント減少しています。                  (原因) 公園・緑地など171か所のうち169か所を公園愛護団体と協働で管理しています。公園利用の地域住民と協議や相談等を行い公園愛護の協力を求めています。愛護団体構成員の高齢化や協力者不足によることが要因です。</p>									目標 達成度

□基本事業の成果状況と評価

基本事業03 安らぎと潤いのある公園整備

指標 ③	公園施設、遊具等によるトラブル件数			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標の うごき															
	成果	業務取得	下がると良い	道路公園課	件/年	0	0	0	0	 (横ばい) 目標達成度  (達成)														
評価	(状況) 平成31年度も0件で、後期目標値を達成しています。 (原因) 安全基準に基づいた公園施設等の点検を定期的に行い、また毎年有資格者による公園遊具点検業務を実施して、危険遊具等のランクづけを行っています。危険度の高い遊具等の撤去や修繕等による事故の未然防止策を講じていることが要因と考えられます。			<p>(件/年)</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>H31</td><td>R02</td></tr> <tr><th>実績値</th><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> </table>					年度		H26	H27	H28	H29	H30	H31	R02	実績値	0	0	0	0	0	0
年度	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R02																	
実績値	0	0	0	0	0	0	0																	

基本事業04 都市緑化の推進

指標 ①	街路や住宅地に緑が十分にあると思う市民割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標の うごき															
	成果	市民アンケート	上がると良い	都市計画課	%	76.3	80.4	81.6	→	 (横ばい) 目標達成度  (達成)														
評価	(状況) 平成31年度は81.6%で、平成30年度より1.2ポイント、後期基準値より5.3ポイント増加しています。 (原因) 開発行為や中高層建築物に関する緑の確保、地区計画による生垣の設置、また、生垣補助や花のまちづくりによる緑化など都市緑化の推進につながっている要因と考えられます。			<p>(%)</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>H31</td><td>R02</td></tr> <tr><th>実績値</th><td>76.3</td><td>77.0</td><td>78.0</td><td>80.4</td><td>81.6</td><td>81.6</td><td>77.0</td></tr> </table>					年度		H26	H27	H28	H29	H30	H31	R02	実績値	76.3	77.0	78.0	80.4	81.6	81.6
年度	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R02																	
実績値	76.3	77.0	78.0	80.4	81.6	81.6	77.0																	



政策 01 安全で快適に暮らせるまち

施策 07 中心市街地の整備

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
中心市街地（まちなか居住者、来街者、多賀城駅利用者、事業者）	商業と住環境が共存する魅力ある中心市街地になっています。 人が集まり、賑わいと活気のある中心市街地になっています。

施策の成果状況と評価

指標 ①	中心市街地居住者数			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標の うごき
	成果	業務取得	上がると良い						
			都市計画課	人	1,595	1,826	1,808	1,900	☀ (向上)
評価	(状況) 平成31年度は1,808人で、平成30年度より18人減少し、後期基準値より213人増加しています。 (原因) 多賀城駅周辺土地区画整理事業が完了したことによる利便性の向上及び多賀城駅前マンション等居住施設の増加が要因と考えられます。								目標 達成度
									■ (低)

指標 ②	文化交流施設等の年間来館者数			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標の うごき
	成果	業務取得	上がると良い						
			商工観光課	万人/年	—	155	147	120	☁ (横ばい)
評価	(状況) 平成31年度は147万人で、平成30年度より8万人減少していますが、後期目標値を達成しています。 (原因) 多賀城駅周辺で開催された各イベントについては、来場者数は5,200人増加しましたが、図書館や書店等(多賀城駅北ビルA棟)及び子育てサポートセンター(多賀城駅北ビルB棟)においては、台風や新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、一時閉館された期間があったことが要因です。								目標 達成度
									🏰 (達成)



□基本事業の成果状況と評価

基本事業 01 都市機能の充実

基本事業 02 中心市街地の活性化

基本事業01 都市機能の充実

指標①	中心市街地の空地率			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標の うごき	
	成果	業務取得	下がると良い	都市計画課	%	39.4	30.2	29.9	17.5	☀ (横ばい)
評価	<p>(状況) 平成31年度は29.9%で、平成30年度より0.3ポイント、後期基準値より9.5ポイント減少しています。                  (原因) 多賀城駅周辺土地区画整理事業が完了したことにより、一定程度、中心市街地の利用がされていることが要因と考えられます。</p>									
										目標 達成度

基本事業01 都市機能の充実

指標②	多賀城駅や駅周辺施設が利用しやすいと思う市民割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標の うごき	
	成果	市民アンケート	上がると良い	都市計画課	%	68.1	85	84.9	➔	☀ (向上)
評価	<p>(状況) 平成31年度は84.9%で、後期基準値より16.8ポイント増加しています。平成30年度より0.1ポイント減少していますが、市民アンケートの指標であり、統計誤差の範囲です。                  (原因) 多賀城駅周辺土地区画整理事業が完了したことによる利便性の向上が図られていることが要因と考えられます。</p>									
										目標 達成度

基本事業02 中心市街地の活性化

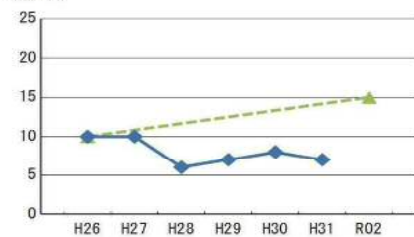
指標①	中心市街地における空き店舗数			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標の うごき	
	成果	業務取得	下がると良い	商工観光課	店舗	7	12	11	0	☔ (低下)
評価	<p>空き物件のうち、テナント募集中の物件の件数です。                  (状況) 平成31年度は11店舗で、平成30年度より1店舗減少しましたが、後期基準値より4店舗増加しています。                  (原因) 店舗として活用されるか不明であった空き物件が、駅前整備の状況を見て、テナント募集を再開したことが要因と考えられます。</p>									
										目標 達成度

基本事業02 中心市街地の活性化

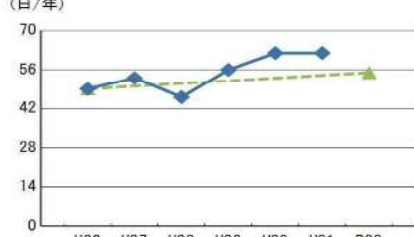
指標②	中心市街地施設を月1回以上利用する市民割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標の うごき	
	成果	市民アンケート	上がると良い	商工観光課	%	57.6	63.9	64.7	➔	☀ (向上)
評価	<p>(状況) 平成31年度は64.7%で、平成30年度より0.8ポイント、後期基準値より7.1ポイント増加しています。                  (原因) 市街地再開発事業が完了し、魅力的な施設が増加したことが、要因と考えられます。</p>									
										目標 達成度

□基本事業の成果状況と評価

基本事業02 中心市街地の活性化

指標 ③	駅前公園等でのイベント件数			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標の うごき
	成果	業務取得	上がると良い	商工観光課	件/年	10	8	7	15
評 価	(状況) 平成31年度は7件で、平成30年度より1件、後期基準値より3件減少しています。 (原因) 市街地再開発事業の完了により、賑わいが創出され、ここ数年は増加傾向にありましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、開催を中止したイベントがあったことが要因です。			(件/年) 					

基本事業02 中心市街地の活性化

指標 ④	駅前公園等でのイベント日数			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標の うごき
	成果	業務取得	上がると良い	商工観光課	日/年	49	62	62	55
評 価	(状況) 平成31年度は62日で、平成30年度と同じ日数、後期基準値より13日増加し、後期目標値を達成しています。 (原因) 新型コロナウイルス感染症の影響により中止したイベントがありましたが、一方で、回数を増やして定期的に開催されたイベントがあったことが要因です。			(日/年) 					



**政策 01 安全で快適に暮らせるまち**

**施策 08 安全で安定した水の供給**

**施策のプロフィール**

施策の対象	施策の意図
市民	安全な水道水を安定的に利用できます。

**施策の成果状況と評価**

指標 ①	水道に満足している市民割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	企業経営課	%	87.3	91.2	91	→
評価	<p>(状況) 平成31年度は91.0%で、平成30年度より0.2ポイント減少し、後期基準値より3.7ポイント増加していますが、市民アンケートの指標であり、統計誤差の範囲です。                      (原因) 安全な水道水の安定的な供給の持続と、市民の皆様の水道事業に対する理解が更に高まることを目的として、本市の管路耐震化事業や水質維持向上等への取組について、年2回の広報紙「たがじょうの水道」を発行し積極的に情報発信していることが要因と考えられます。</p>							目標 達成度  (達成)	

□基本事業の成果状況と評価

基本事業 01 安全な水道水の供給

基本事業 02 水道水の安定的な供給

基本事業 03 健全な水道事業経営の推進

基本事業01 安全な水道水の供給

指標①	水道水供給に関する水質異常件数				単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標の うごき
	成果	業務取得	下がると良い	施設整備課	件/年	0	0	0	0	0
評価	(状況) 平成31年度は0件で、後期基準値を達成しています。 (原因) 毎日、水質検査を実施するとともに、水道施設の監視や維持管理、水質異常の原因となる老朽化した配水管の更新を計画的に進めていることが要因です。								目標達成度	(達成)

基本事業01 安全な水道水の供給

指標②	鉛製給水管の残存件数				単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標の うごき
	成果	業務取得	下がると良い	施設整備課	件	3,170	1,814	1,498	1,993	1,993
評価	(状況) 平成31年度は1,498件で、平成30年度より316件、後期基準値より1,672件減少しており、後期目標値を達成しています。 (原因) 水道メーターの交換時に併せた鉛製給水管の布設替えを計画的に実施するとともに、所有者が行った給水装置改造工事による布設替え等が進んだことが要因です。								目標達成度	(達成)

基本事業02 水道水の安定的な供給

指標①	突発的な断水事故件数（災害を除く）				単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標の うごき
	成果	業務取得	下がると良い	施設整備課	件/年	0	0	0	0	0
評価	(状況) 平成31年度は0件で、後期基準値を達成しています。 (原因) 突発的な断水事故防止策として、漏水調査業務や老朽管更新工事の継続的な実施、近接工事における立会、防護方法の指導を徹底したことなどが要因です。								目標達成度	(達成)

基本事業02 水道水の安定的な供給

指標②	水道管耐震化率				単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標の うごき
	成果	業務取得	上がると良い	施設整備課	%	29.2	33.4	34.8	40	40
評価	対象となる水道管は、口径75mm以上の配水管です。 (状況) 平成31年度は34.8%で、平成30年度より1.4ポイント、後期基準値より5.6ポイント増加しています。 (原因) 口径75mm以上の配水管の整備を計画的に行っていることから緩やかに増加していますが、平成29年度に策定した施設整備計画に基づいて口径400mmを中心に整備したことにより整備延長が伸びなかったことが要因です。								目標達成度	(低)

□基本事業の成果状況と評価

基本事業03 健全な水道事業経営の推進

指標①	經常収支比率			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標のうごき
	成果	業務取得	上がると良い	企業経営課	%	106.3	107.6	107.2	100.5
評価	<p>(状況) 平成31年度は107.2%で、平成30年度より0.4ポイント減少していますが、後期基準値より0.9ポイント増加し、後期目標値を達成しています。</p> <p>(原因) 平成30年度より減少したのは、経営の効率化とサービス水準の維持向上のため、平成31年度から包括委託を実施し、人件費等の費用の削減を図ったものの、費用の削減以上に給水収益が減少したことなどが要因です。</p>								目標達成度 (達成)

基本事業03 健全な水道事業経営の推進

指標②	有収率			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標のうごき
	成果	業務取得	上がると良い	企業経営課	%	92.9	95.3	95.5	93.6
評価	<p>(状況) 平成31年度は95.5%で、平成30年度より0.2ポイント、後期基準値より2.6ポイント増加し、後期目標値を達成しています。</p> <p>(原因) 年間総有収水量における用途ごとの使用水量は、すべての用途で平成30年度を下回りましたが、有収率は漏水調査業務や計画的な老朽施設の更新を行っていることが増加の要因と考えられます。</p>								目標達成度 (達成)

基本事業03 健全な水道事業経営の推進

指標③	自己資本構成比率			単位	基準値 (H26)	実績値 (H30)	実績値 (H31)	目標値 (R02)	指標のうごき
	成果	業務取得	上がると良い	企業経営課	%	58.1	65.9	67.8	61.8
評価	<p>(状況) 平成31年度は67.8%で、平成30年度より1.9ポイント、後期基準値より9.7ポイント増加し、後期目標値を達成しています。</p> <p>(原因) 総資本のうち負債の企業債残高が減少したこと、また、自己資本については、工事負担金や受贈財産等の事業活動により造成される繰延収益が増加したことなどが要因です。</p>								目標達成度 (達成)